

茨木市次世代育成支援に関するニーズ調査

結果報告書

(中高生)

平成31年（2019年）3月

茨木市

目 次

I. 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査設計	1
3 回収結果	1
4 調査結果の見方	1
II. 調査結果	2
1 本人や家族に関することなどについて	2
2 一緒に暮らしている人の手伝いや世話について	11
3 一緒に暮らしている人や自身に対する考え方や見方について	19
4 学校での過ごし方について	21
5 ふだんの過ごし方などについて	24
6 学校以外の公共施設について	35
7 悩みや相談先について	41
8 地域に役に立てる支援について	43
9 自由意見	44
III. 調査結果からみえてきた今後の課題	46

I. 調査概要

1 調査目的

現行の「茨木市次世代育成支援行動計画」が2019年度末で終了することから、子ども・子育て支援法に基づく「子ども・子育て支援事業計画」を含めた、次世代育成支援施策の新たな計画として「茨木市次世代育成支援行動計画（第4期）」を策定することとしている。本調査は、新たな計画策定にあたって、本市の中学校及び高等学校に通学する生徒の学校生活や友人関係、家庭生活等の状況や意見・要望などを把握することを目的に実施した。

2 調査設計

- (1) 調査地域 茨木市全域
- (2) 調査対象
 - ・茨木市立中学校（4校）並びに大阪府立高等学校（6校・全日制）、特別支援学校（1校）に通学する生徒
 - ・中学校は2年生、高等学校・特別支援学校は1年生もしくは2年生を対象に実施
- (3) 対象者数 中学校は各校から2～5クラスを抽出し計475人を、高等学校・特別支援学校は各校から2クラスを抽出もしくは全クラスを対象に計809人を対象に実施
- (4) 調査方法 学校での自記入方式
- (6) 調査期間 平成30年12月13日（木）～平成31年1月11日（金）

3 回収結果

区分	配付数	回収数	回収率
中学生	475	359	75.6%
高校生	809	472	58.3%
計	1,284	1,153	89.8%

* 高校生の配付数及び回収数に特別支援学校の生徒分を含む。

* 回収数の計に在籍校不明分（322人）を含む。（在籍校不明は問2が無回答のもの）

4 調査結果の見方

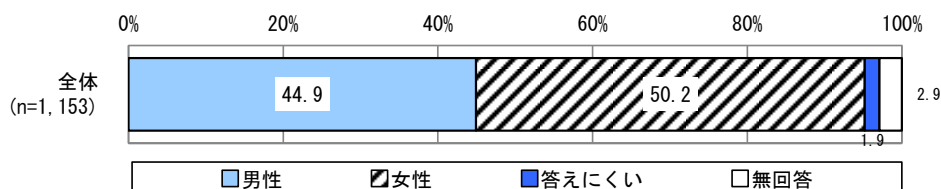
- (1) 図中の「n」は、設問に対する回答者数のことを示す。
- (2) 回答比率（%）は回答者数（n）を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示している。小数点以下の端数処理の関係で、内訳の合計が計に一致しないことがある。
- (3) 複数回答（すべてに○、3つまでに○等）を依頼した質問は、回答比率（%）の計は100.0%を超える。
- (4) 図表において、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。
- (5) 「高校」に「特別支援学校」の回答を含む。

Ⅱ. 調査結果

1 本人や家族に関することなどについて

(1) 性別〔問1〕

回答者の性別は、「男性」44.9%、「女性」50.2%となっている。

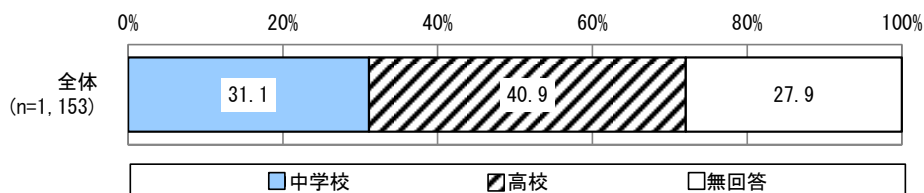


(2) 在籍校と学年〔問2〕

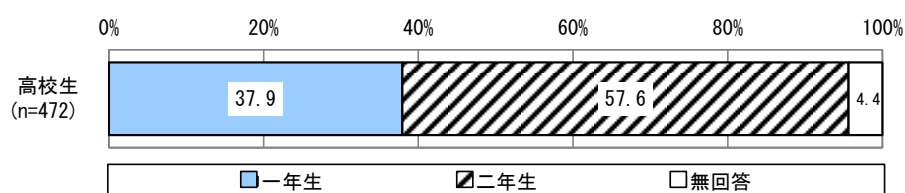
在籍校は、「中学校」が31.1%、「高校」が40.9%となっている。

高校・特別支援学校在籍者の学年は、「一年生」が37.9%、「二年生」が57.6%で、居住地は「茨木市内」が34.7%に対し、「茨木市外」は44.5%となっている。

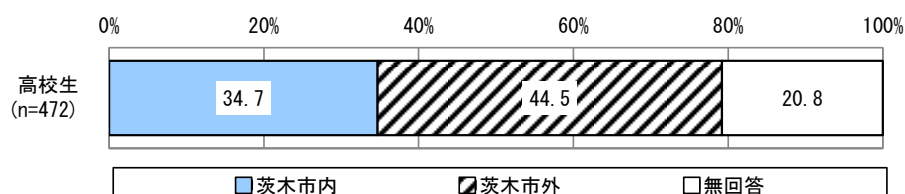
□在籍校



□学年（高校・特別支援学校の生徒）



□市内居住の有無（高校・特別支援学校の生徒）

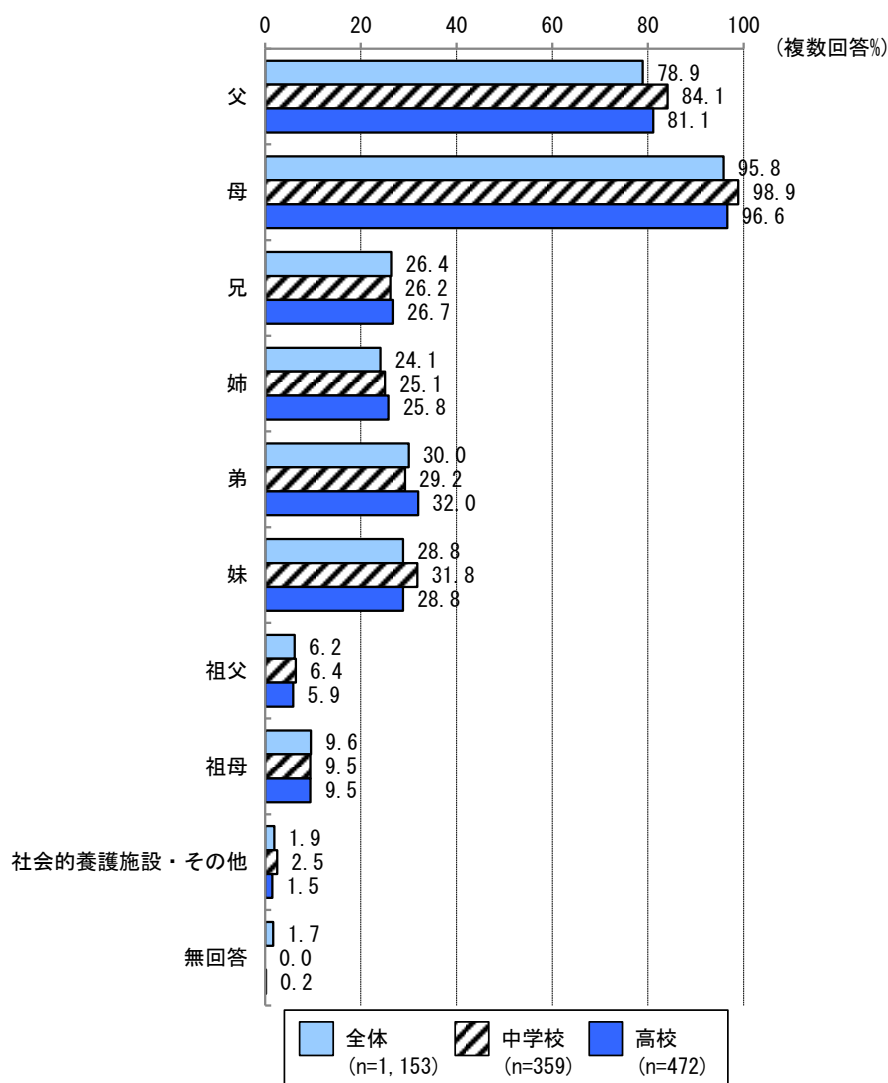


(3) 同居家族〔問3〕

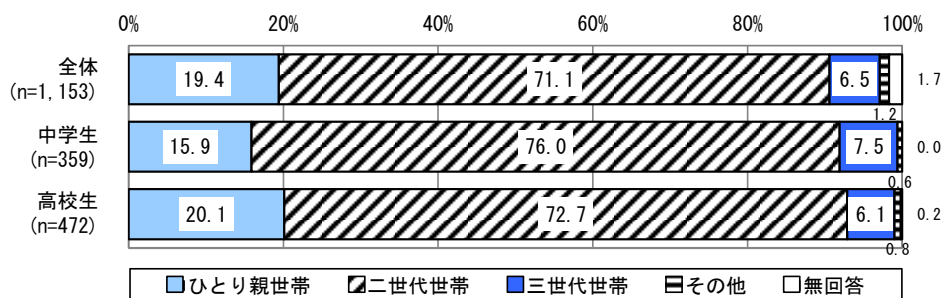
家族構成は、「二世世代世帯」が71.1%で最も多く、次いで「ひとり親世帯」が19.4%、「三世世代世帯」が6.5%となっている。

在籍校別でみると、「ひとり親世帯」は中学校（15.9%）に比べ高校（20.1%）のほうが4.2ポイント高くなっている。

□同居家族



□家族構成

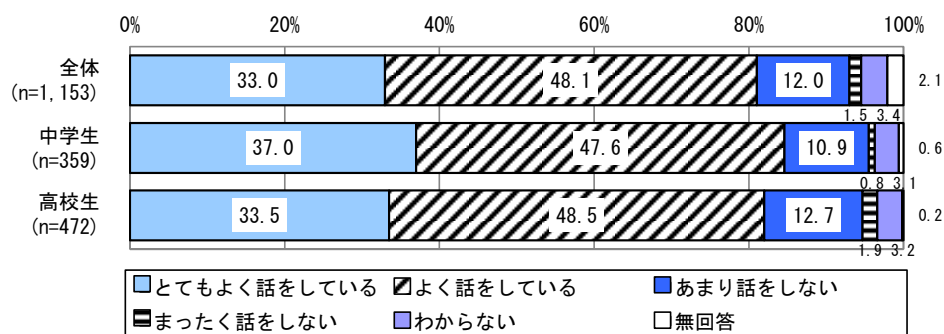


(4) 家族との会話の状況〔問4〕

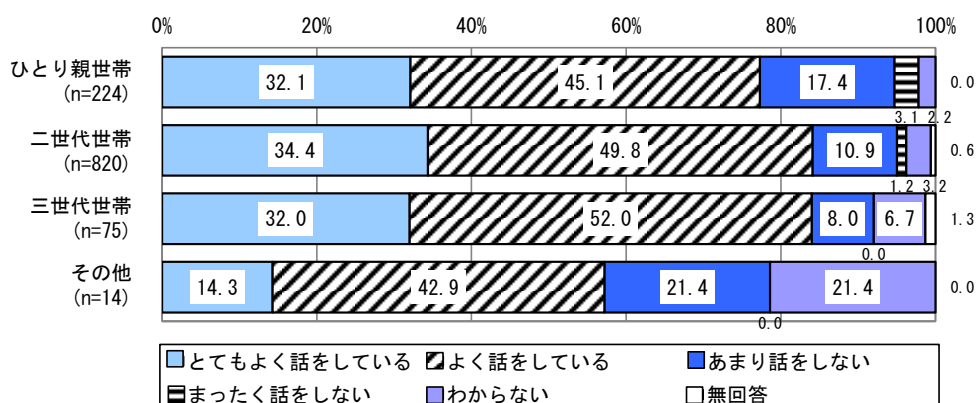
ふだんの家族との会話の状況については、「よく話をしている」が48.1%で最も多く、次いで「とてもよく話をしている」が33.0%、「あまり話をしない」が12.0%となっている。

在籍校別でみると、「とてもよく話をしている」は中学生(37.0%)に比べ高校生(33.5%)のほうが3.5ポイント低くなっている。

家族構成別では、ひとり親世帯の「よく話をしている」の割合が二世帯・三世帯世帯に比べ低く、「あまり話をしない」の割合が高くなっている。



□ 家族構成別



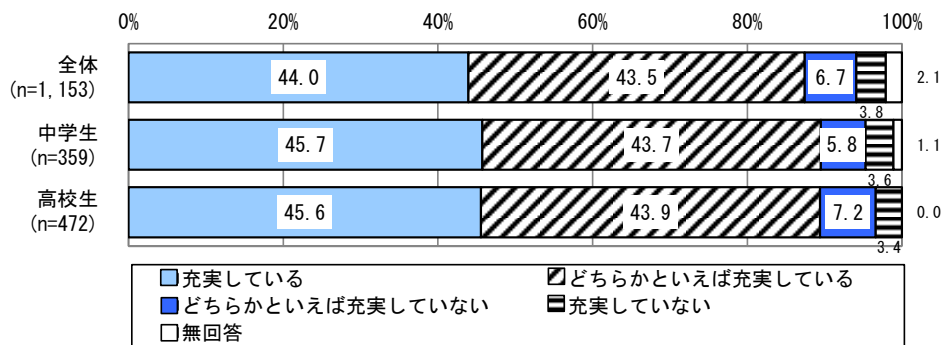
(5) 今の生活の充実感 [問5]

今の生活の充実感については、「充実している」が44.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば充実している」が43.5%となっており、9割近くが充実していると回答している。

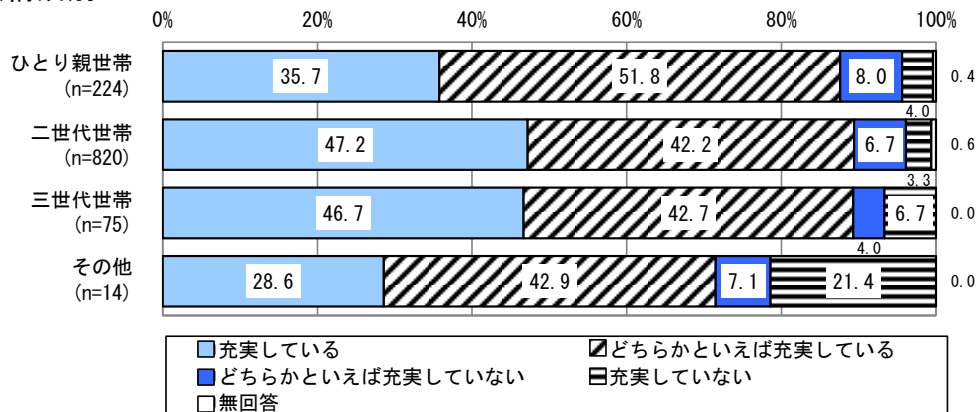
中学生・高校生とも充実しているとの回答が9割近くで、大きな差はみられない。

家族構成別では、ひとり親世帯の「充実している」の割合は、二世帯・三世帯世帯に比べ低く、「どちらかといえば充実している」の割合が高くなっている。

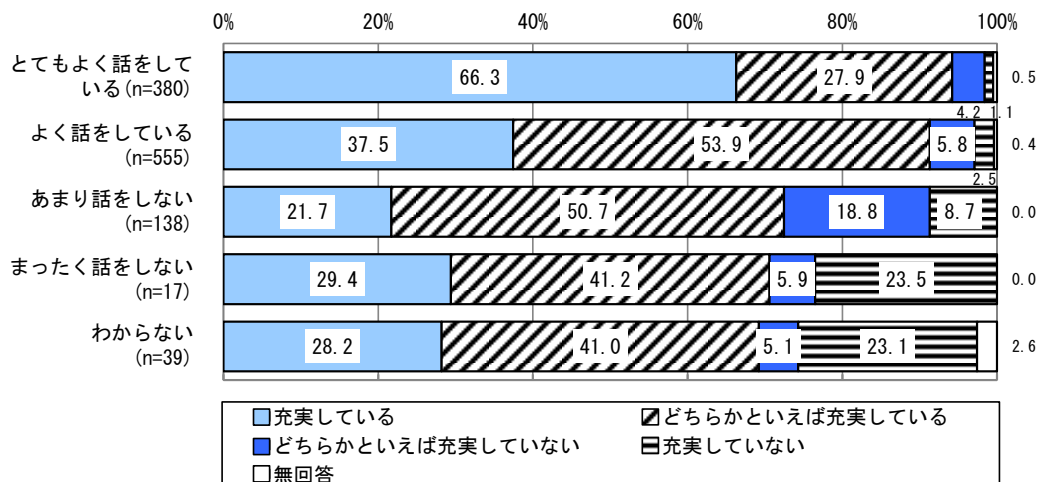
また、一緒に暮らしている人との会話が多いほど、生活に対する充実度も高い。



□ 家族構成別

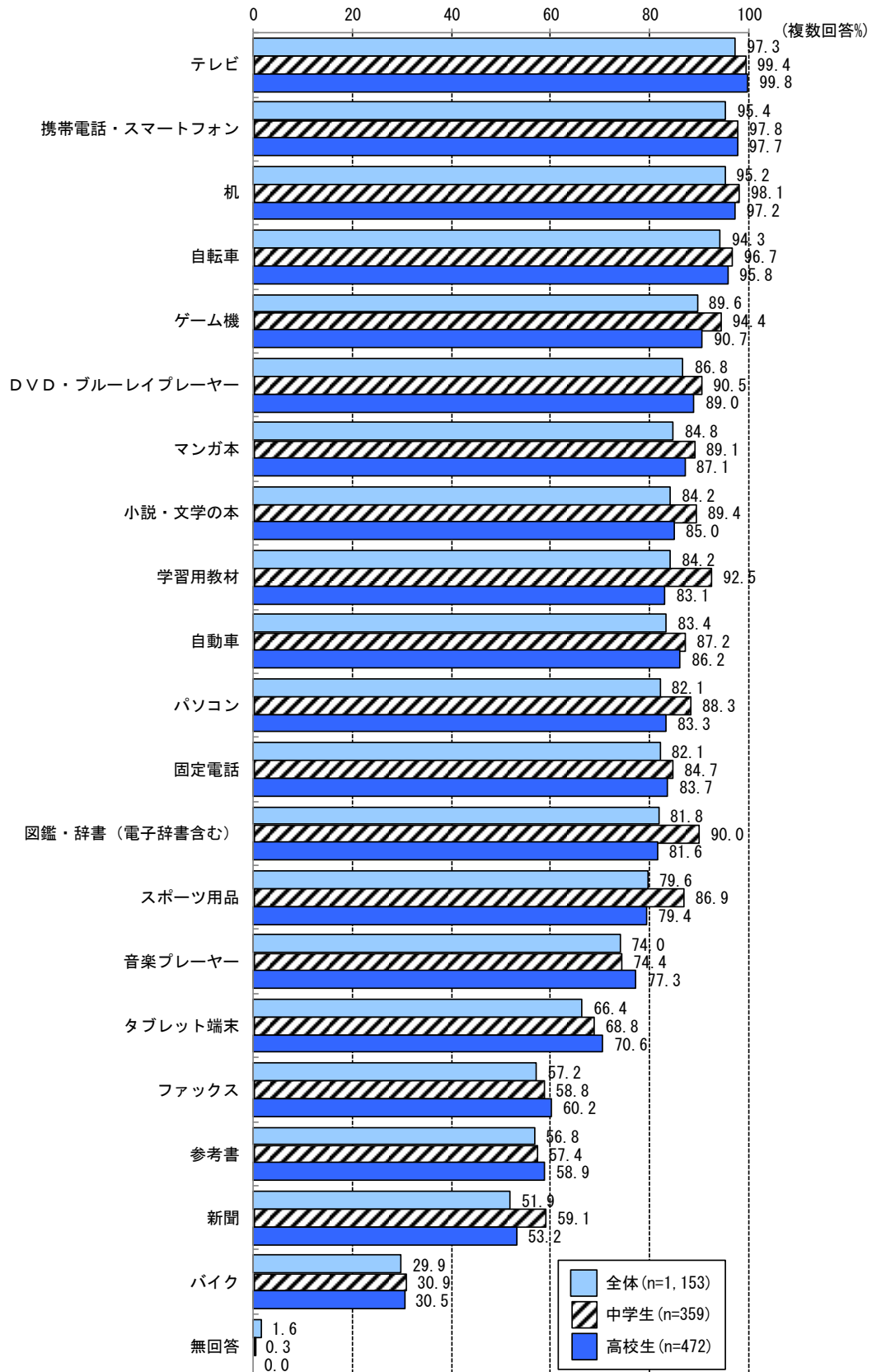


□ 一緒に暮らしている人との会話の状況別



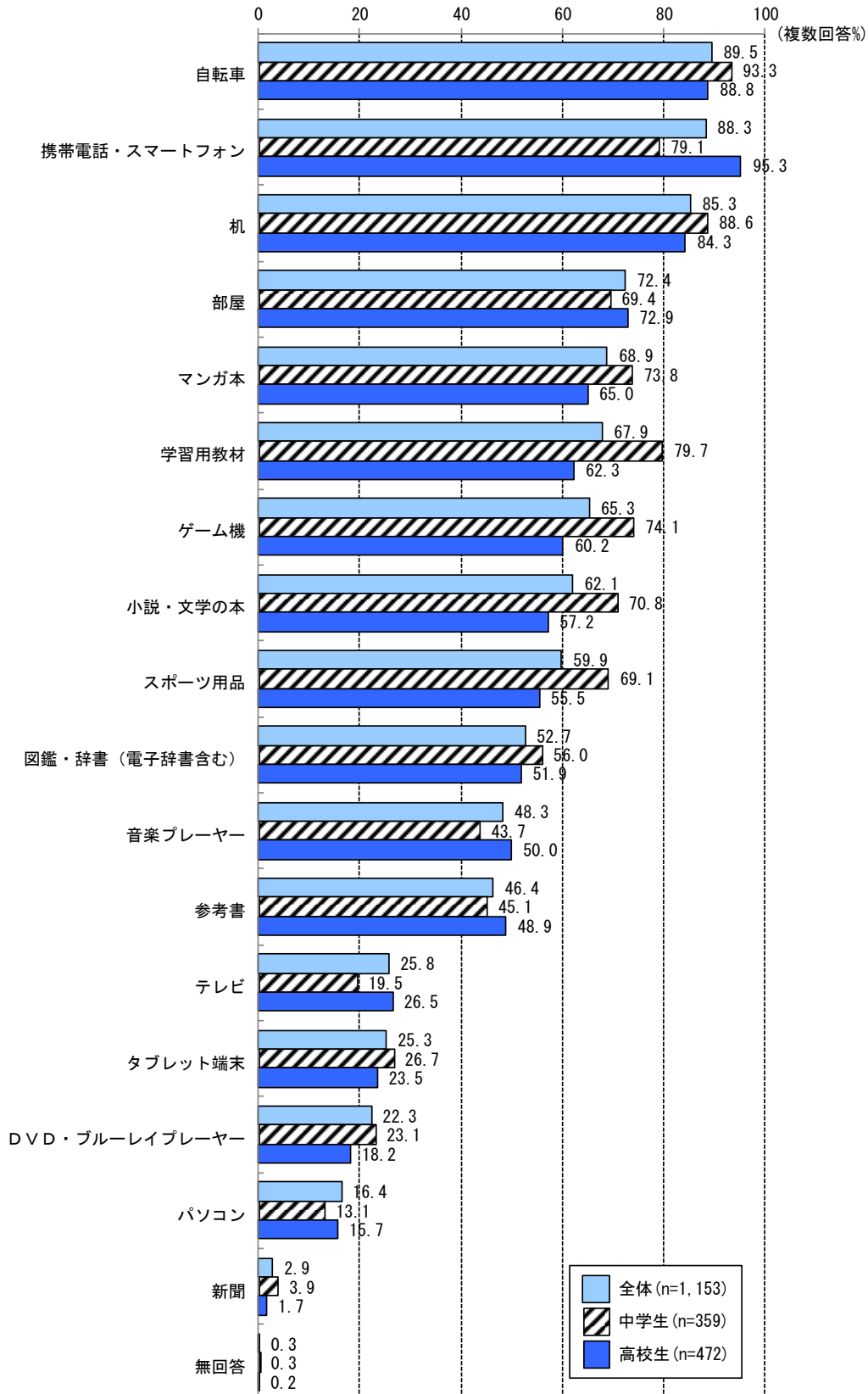
(6) 住まいでの所有物〔問6〕

回答者の住まいにあるもののうち「携帯電話・スマートフォン」は中高生に関係なく、約98%が所有している。「学習用教材」や「パソコン」「図鑑・辞書（電子辞書含む）」「スポーツ用品」「新聞」がある割合は、高校生に比べ中学生のほうが高い。一方、「音楽プレイヤー」や「タブレット端末」は中学生に比べ高校生の割合が高くなっている。



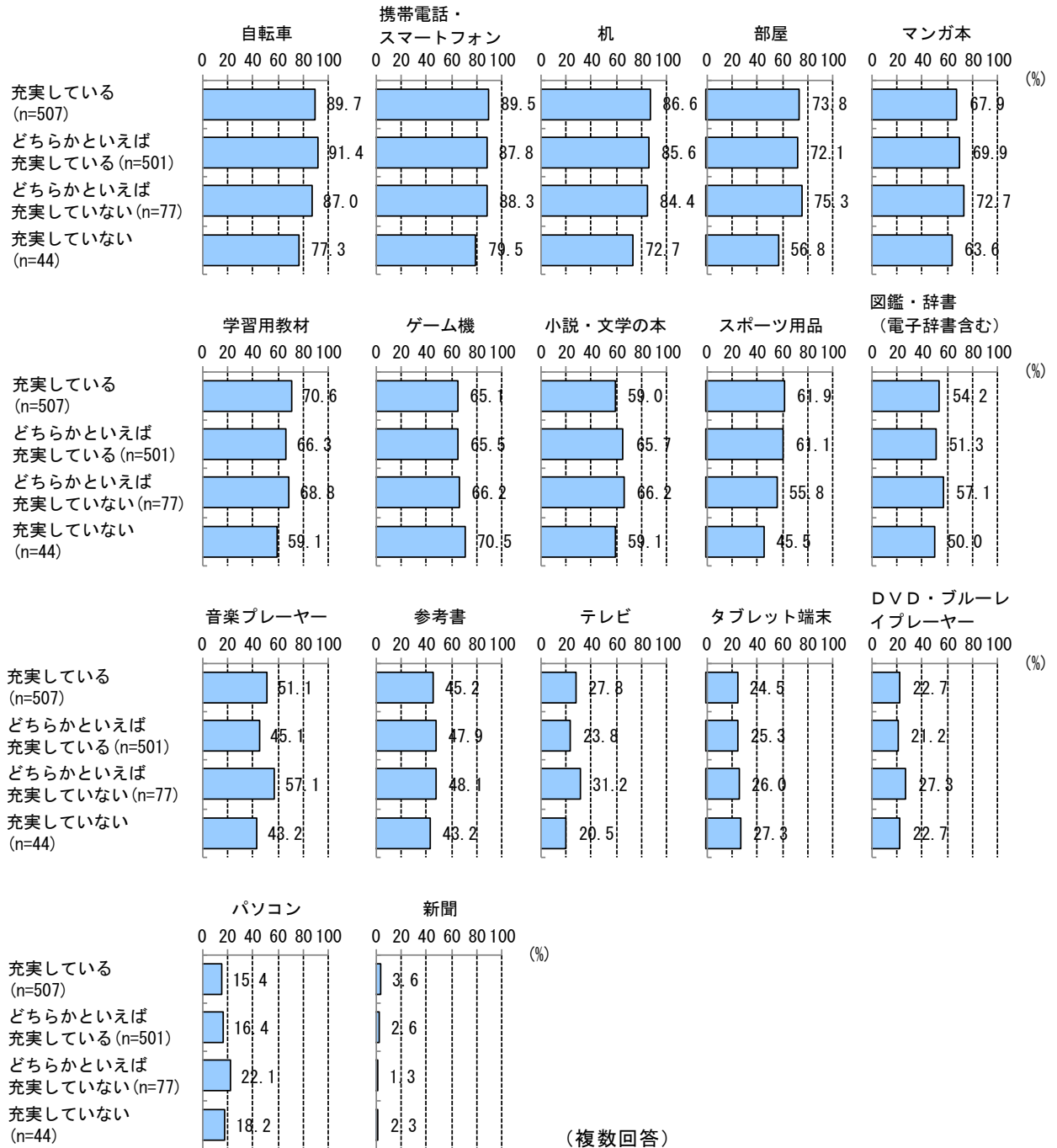
(7) 自分自身専用の所有物〔問7〕

中学生・高校生が自分専用で所有しているもので多いのは、「自転車」(中学生93.3%、高校生88.8%)である。これに次いで「携帯電話・スマートフォン」(中学生79.1%、高校生95.3%)で、高校生の所有率が高い。中学生では「学習用教材」や「ゲーム機」「小説・文学の本」「スポーツ用品」などの所有率が高校生に比べ10ポイント以上高くなっている。



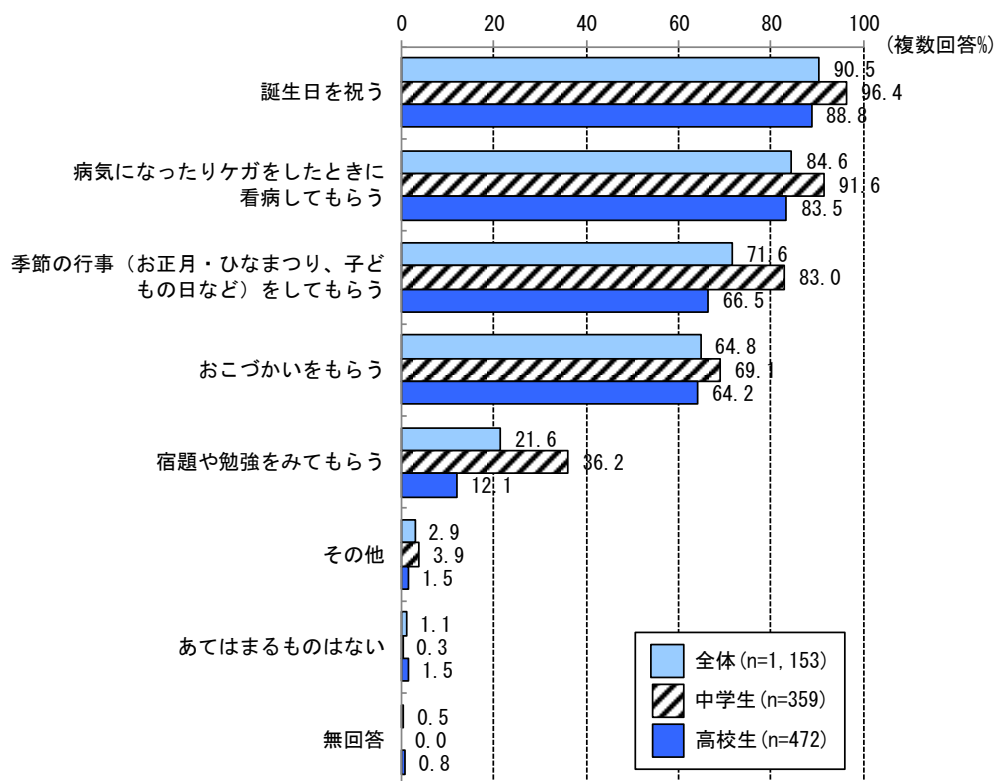
現在の生活が充実していないと回答した中高生で、「自転車」や「携帯電話・スマートフォン」「机」「部屋」「マンガ本」「学習用教材」「スポーツ用品」「図鑑・辞書（電子辞書含む）」などの所有率が最も低くなっている。しかし「ゲーム機」の割合は70.5%で最も高い。

□生活の充実感別



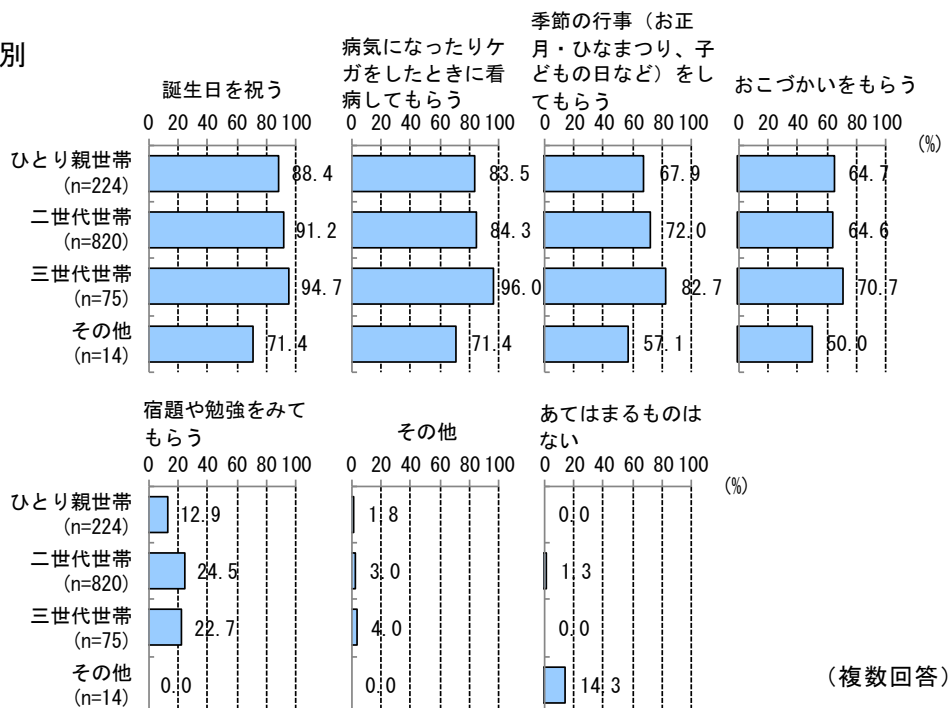
(8) 一緒に暮らしている人からしてもらっていること〔問8〕

中学生、高校生とも「誕生日を祝う」(中学生96.4%、高校生88.8%)が最も多い。これに次いで「病気になったりケガをしたときに看病してもらう」(中学生91.6%、高校生83.5%)、「季節の行事(お正月・ひなまつり、子どもの日など)をしてもらう」(中学生83.0%、高校生66.5%)が続く。いずれの項目も高校生に比べ中学生の割合のほうが高くなっている。



家族構成別では、「誕生日を祝う」「季節の行事(お正月・ひなまつり、子どもの日など)をしてもらう」「宿題や勉強をみてもらう」の各割合が、ひとり親家庭で低い。

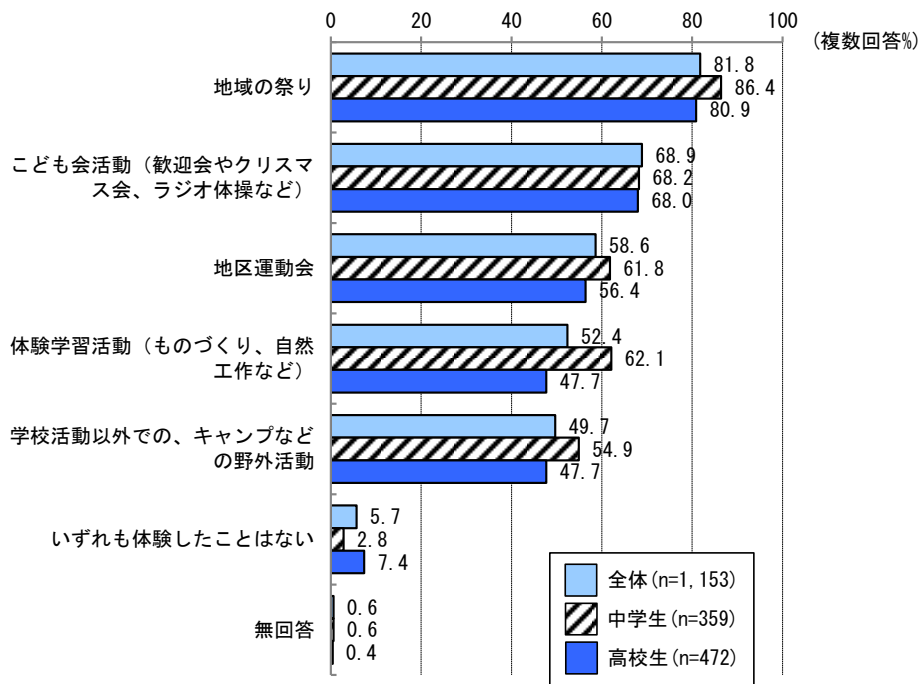
□ 家族構成別



(9) 地域活動や体験活動等への参加経験 [問9]

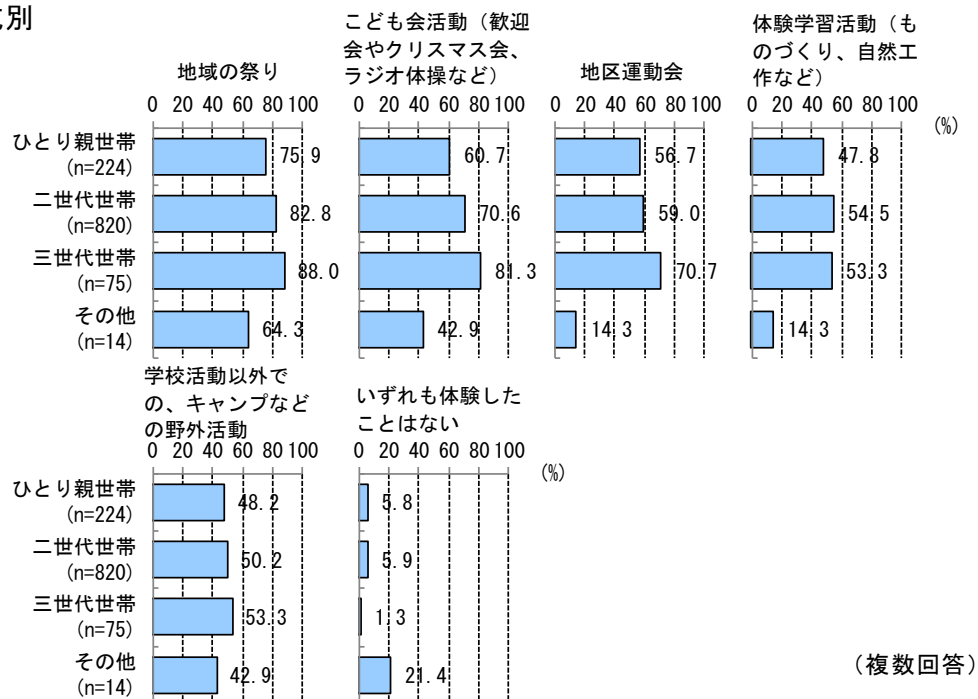
中学生、高校生とも「地域の祭り」(中学生86.4%、高校生80.9%)が最も多い。これに次いで「こども会活動(歓迎会やクリスマス会、ラジオ体操など)」(中学生68.2%、高校生68.0%)、「地区運動会」(中学生61.8%、高校生56.4%)が続く。

どの活動も概ね中学生の割合が高校生を上回っており、特に「体験学習活動(ものづくり、自然工作など)」(中学生62.1%、高校生47.7%)は、高校生に比べ中学生のほうが14.4ポイント高くなっている。



家族構成別では、地域活動への参加割合は、全般にひとり親家庭で低くなっている。

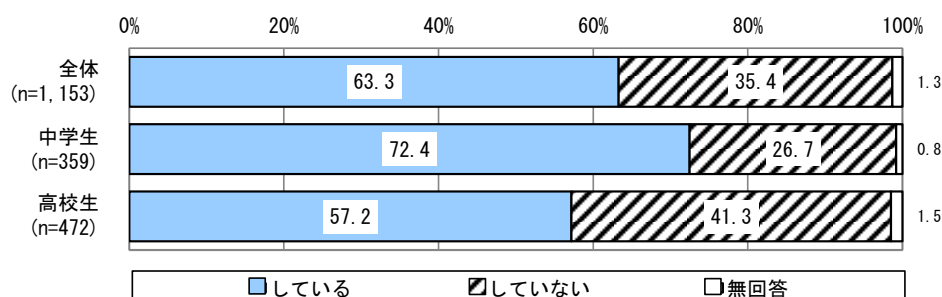
□ 家族構成別



2 一緒に暮らしている人の手伝いや世話について

(1) 一緒に暮らしている人の手伝いや世話の有無〔問10〕

一緒に暮らしている人の手伝いや世話について、「している」割合は中学生が72.4%、高校生が57.2%で、中学生のほうが15.2ポイント高い。

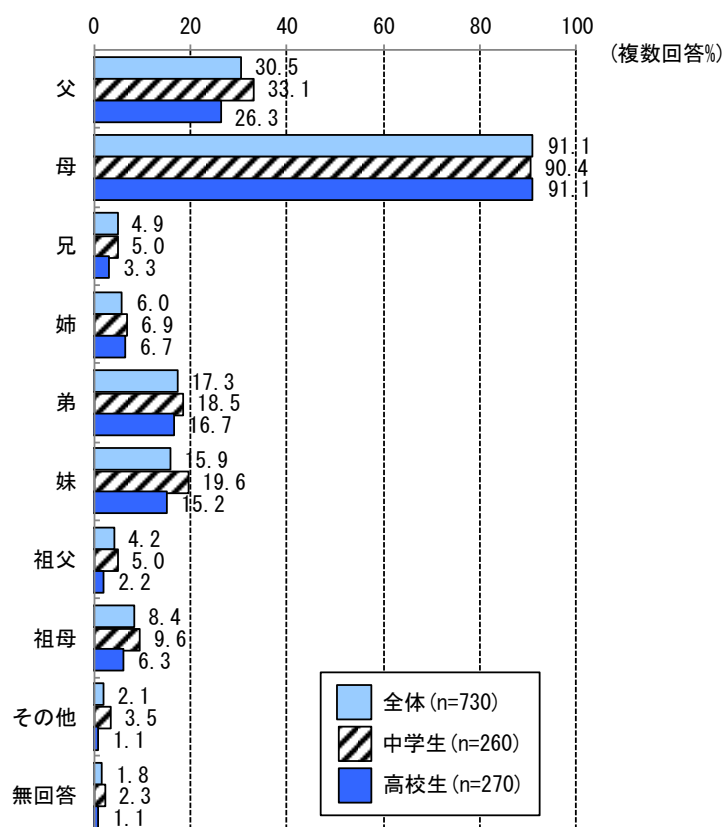


(2) 一緒に暮らしている人の手伝いや世話の状況

(1) で「している」を選んだ方

① 手伝いや世話をしている人との関係〔問11〕

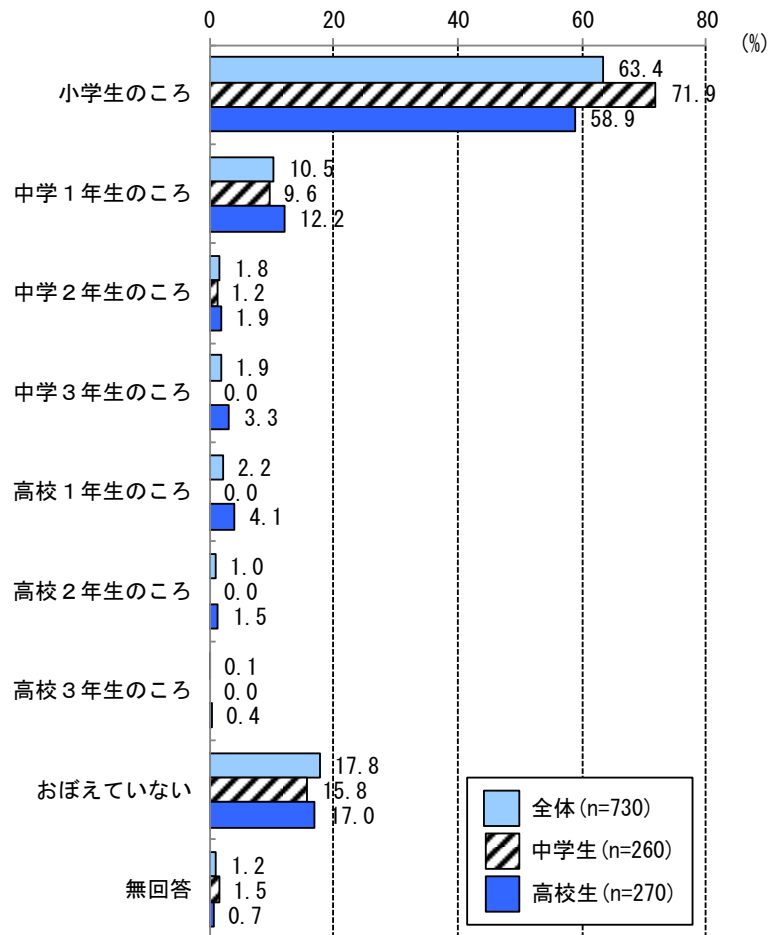
手伝いや世話をしている相手は、中学生、高校生とも「母」(中学生90.4%、高校生91.1%)が最も多い。



(1)で「している」を選んだ方

②手伝いや世話を始めた時期〔問12〕

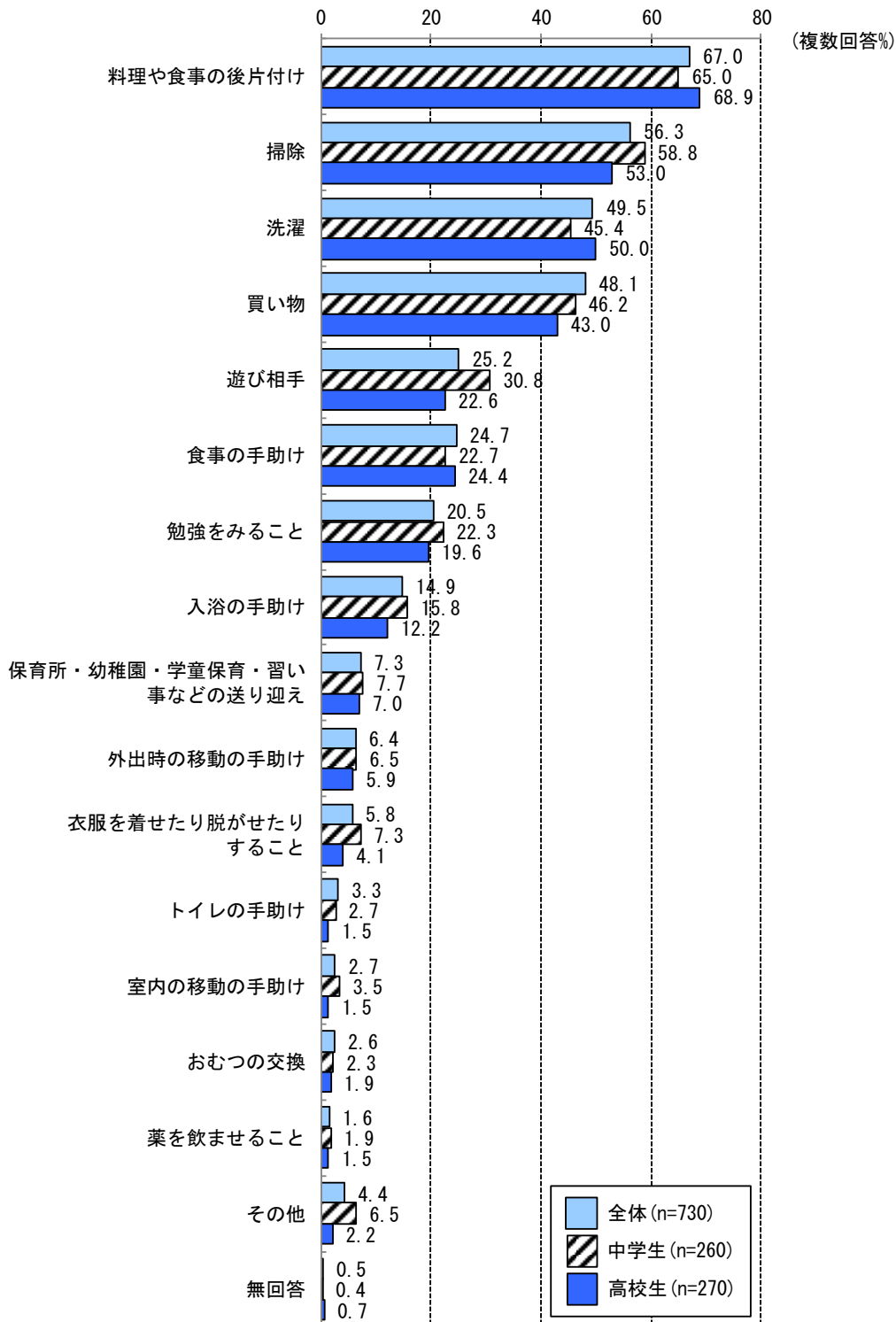
手伝いや世話を始めた時期は中学生・高校生とも「小学生のころ」(中学生71.9%、高校生58.9%)が最も多い。



(1) で「している」を選んだ方

③手伝いや世話の内容〔問13〕

手伝いや世話の内容は、中学生、高校生とも「料理や食事の後片付け」（中学生65.0%、高校生68.9%）が最も多く、次いで「掃除」（中学生58.8%、高校生53.0%）、「洗濯」（中学生45.4%、高校生50.0%）となっている。



トイレの手助けやおむつの交換、衣服の着脱、移動の手助け、服薬の手助けを行っている中高生は全体の中では少数となっているが、このような手伝いや世話をしている中高生では、買い物や料理、食事の後片付け、洗濯、掃除などの家事も併せて行っている割合が高く、また「勉強をみること」や「遊び相手」「保育所・幼稚園・学童保育・習い事などの送り迎え」などの割合も高い。

□ 並行して行っている手伝いや世話の状況

(上段: 回答者数 下段: %)

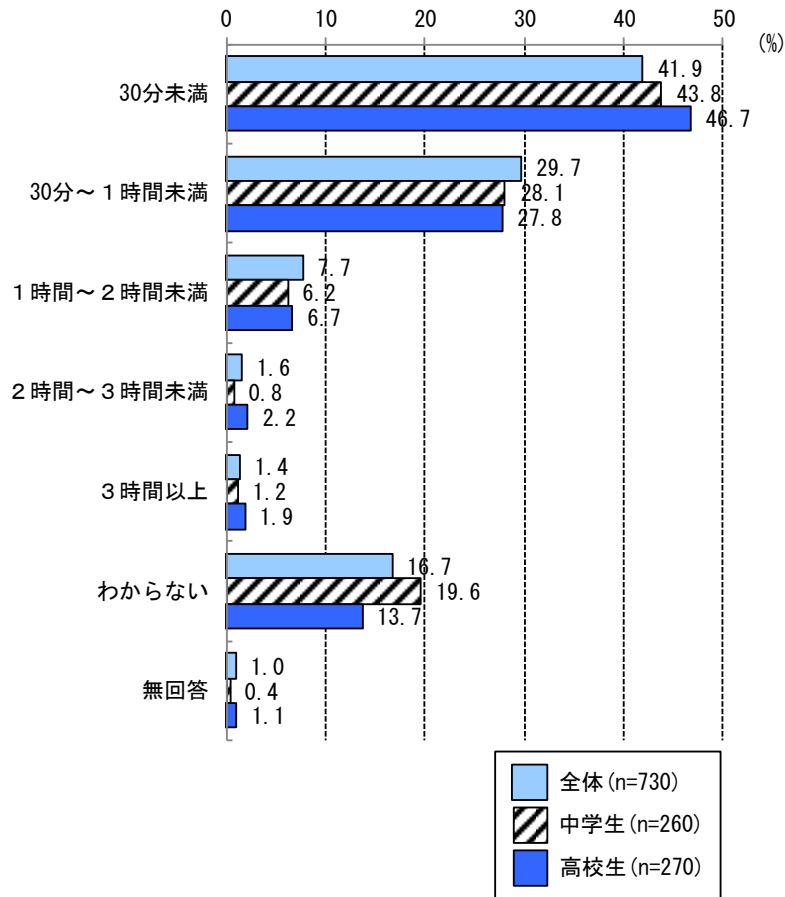
	n	買い物	食事の手助け	料理や食事の後片付け	入浴の手助け	洗濯	掃除	トイレの手助け	おむつの交換	衣服を着せたり脱がせたりすること	室内の移動の手助け	外出時の移動の手助け	薬を飲ませること	勉強をみること	遊び相手	保育所・幼稚園・学童保育・習い事などの送り迎え	その他	無回答
買い物	351 100.0	- -	106 30.2	257 73.2	65 18.5	197 56.1	225 64.1	17 4.8	14 4.0	29 8.3	17 4.8	35 10.0	10 2.8	94 26.8	106 30.2	40 11.4	5 1.4	-
食事の手助け	180 100.0	106 58.9	- -	136 75.6	75 41.7	100 55.6	121 67.2	15 8.3	14 7.8	27 15.0	14 7.8	29 16.1	5 5.0	49 27.2	69 38.3	31 17.2	4 2.2	-
料理や食事の後片付け	489 100.0	257 52.6	136 27.8	- -	74 15.1	261 53.4	301 61.6	21 4.3	16 3.3	35 7.2	13 2.7	37 7.6	10 2.0	100 20.4	127 26.0	42 8.6	15 3.1	-
入浴の手助け	109 100.0	65 59.6	75 68.8	74 67.9	- -	60 55.0	65 59.6	14 12.8	11 10.1	23 21.1	12 11.0	17 15.6	6 5.5	36 33.0	47 43.1	26 23.9	1 0.9	-
洗濯	361 100.0	197 54.6	100 27.7	261 72.3	60 16.6	- -	243 67.3	18 5.0	15 4.2	30 8.3	13 3.6	27 7.5	11 3.0	73 20.2	92 25.5	38 10.5	1 0.3	-
掃除	411 100.0	225 54.7	121 29.4	301 73.2	65 15.8	243 59.1	- -	18 4.4	15 3.6	32 7.8	13 3.2	34 8.3	9 2.2	94 22.9	112 27.3	38 9.2	10 2.4	-
トイレの手助け	24 100.0	17 70.8	15 62.5	21 87.5	14 58.3	18 75.0	18 75.0	- -	9 37.5	12 50.0	4 16.7	9 37.5	4 16.7	12 50.0	15 62.5	10 41.7	- -	-
おむつの交換	19 100.0	14 73.7	14 73.7	16 84.2	11 57.9	15 78.9	15 78.9	9 47.4	- -	18 94.7	5 26.3	11 57.9	6 31.6	11 57.9	17 89.5	11 57.9	- -	-
衣服を着せたり脱がせたりすること	42 100.0	29 69.0	27 64.3	35 83.3	23 54.8	30 71.4	32 76.2	12 28.6	18 42.9	- -	7 16.7	19 45.2	8 19.0	21 50.0	36 85.7	19 45.2	- -	-
室内の移動の手助け	20 100.0	17 85.0	14 70.0	13 65.0	12 60.0	13 65.0	13 65.0	4 20.0	5 25.0	7 35.0	- -	11 55.0	5 25.0	13 65.0	12 60.0	9 45.0	- -	-
外出時の移動の手助け	47 100.0	35 74.5	29 61.7	37 78.7	17 36.2	27 57.4	34 72.3	9 19.1	11 23.4	19 40.4	11 23.4	- -	8 17.0	21 44.7	28 59.6	18 38.3	- -	-
薬を飲ませること	12 100.0	10 83.3	9 75.0	10 83.3	6 50.0	11 91.7	9 75.0	4 33.3	6 50.0	8 66.7	5 41.7	8 66.7	- -	9 75.0	11 91.7	8 66.7	- -	-
勉強をみること	150 100.0	94 62.7	49 32.7	100 66.7	36 24.0	73 48.7	94 62.7	12 8.0	11 7.3	21 14.0	13 8.7	21 14.0	9 6.0	- -	103 68.7	31 20.7	3 2.0	-
遊び相手	184 100.0	106 57.6	69 37.5	127 69.0	47 25.5	92 50.0	112 60.9	15 8.2	17 9.2	36 19.6	12 6.5	28 15.2	11 6.0	103 56.0	- -	40 21.7	5 2.7	-
保育所・幼稚園・学童保育・習い事などの送り迎え	53 100.0	40 75.5	31 58.5	42 79.2	26 49.1	38 71.7	38 71.7	10 18.9	11 20.8	19 35.8	9 17.0	18 34.0	8 15.1	31 58.5	40 75.5	- -	1 1.9	-
その他	32 100.0	5 15.6	4 12.5	15 46.9	1 3.1	1 3.1	10 31.3	- -	- -	- -	- -	- -	- -	3 9.4	5 15.6	1 3.1	- -	-

(複数回答)

(1)で「している」を選んだ方

④手伝いや世話を行っている1日あたりの時間〔問14〕

手伝いや世話の1日あたりの時間は、中学生、高校生とも「30分未満」（中学生43.8%、高校生46.7%）が最も多く、次いで「30分～1時間未満」（中学生28.1%、高校生27.8%）となっている。



トイレの手助けやおむつの交換、衣服の着脱、移動の手助け、服薬の手助けを行っている時間は、買い物や料理、食事の後片付け、洗濯、掃除などの家事の時間に比べ長い傾向がある。

□介護・介助に関する手伝いや世話にかかる時間の状況

(上段：回答者数 下段：%)

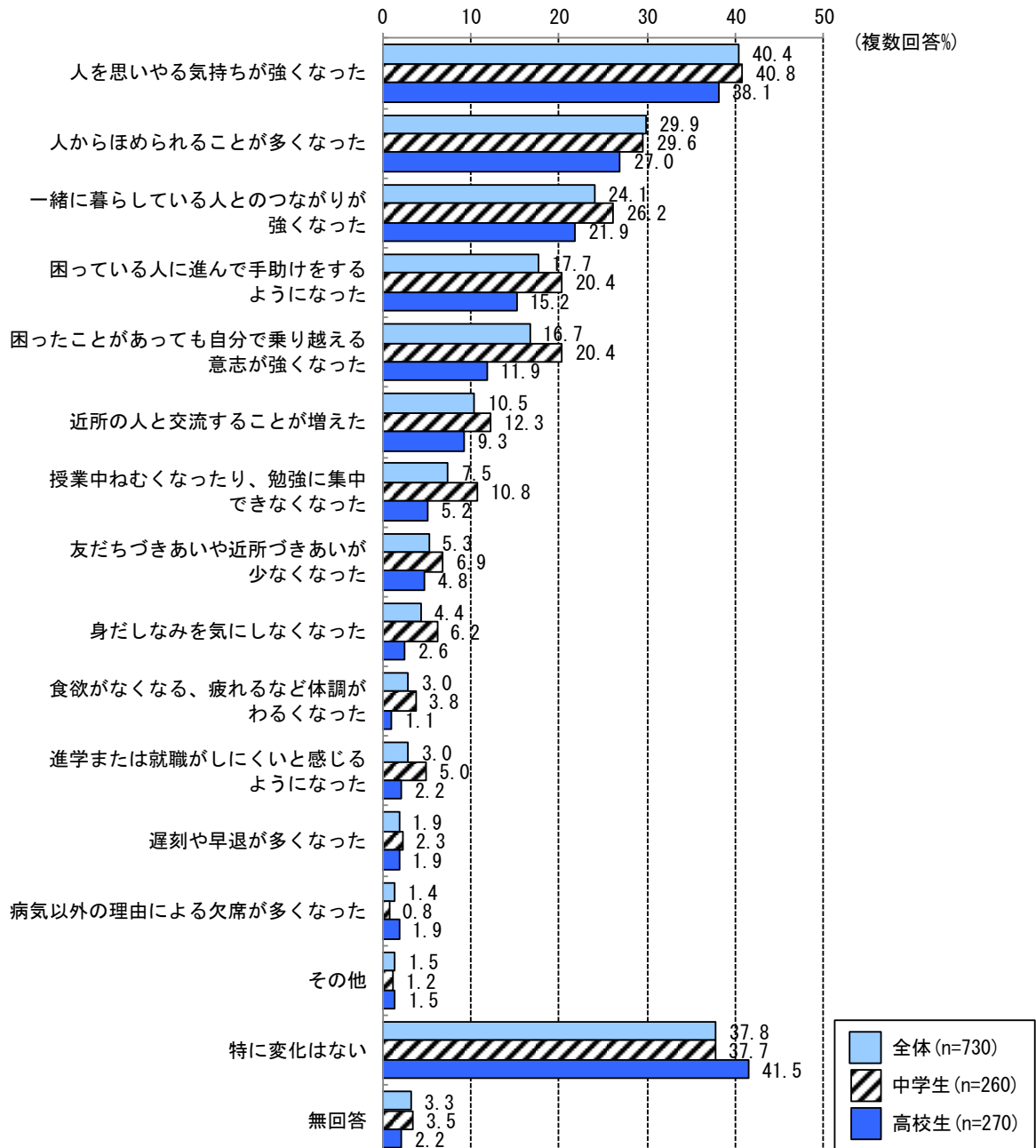
	n	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間以上	わからない	無回答
買い物	351	108	115	35	8	8	74	3
	100.0	30.8	32.8	10.0	2.3	2.3	21.1	0.9
食事の手助け	180	48	67	21	3	2	38	1
	100.0	26.7	37.2	11.7	1.7	1.1	21.1	0.6
料理や食事の後片付け	489	182	155	45	11	6	88	2
	100.0	37.2	31.7	9.2	2.2	1.2	18.0	0.4
入浴の手助け	109	31	40	13	4	3	16	2
	100.0	28.4	36.7	11.9	3.7	2.8	14.7	1.8
洗濯	361	132	117	32	11	7	60	2
	100.0	36.6	32.4	8.9	3.0	1.9	16.6	0.6
掃除	411	150	134	41	10	7	68	1
	100.0	36.5	32.6	10.0	2.4	1.7	16.5	0.2
トイレの手助け	24	5	3	8	2	1	5	-
	100.0	20.8	12.5	33.3	8.3	4.2	20.8	-
おむつの交換	19	1	3	5	2	1	7	-
	100.0	5.3	15.8	26.3	10.5	5.3	36.8	-
衣服を着せたり脱がせたりすること	42	2	10	11	2	2	15	-
	100.0	4.8	23.8	26.2	4.8	4.8	35.7	-
室内の移動の手助け	20	3	6	3	-	1	5	2
	100.0	15.0	30.0	15.0	-	5.0	25.0	10.0
外出時の移動の手助け	47	11	14	8	2	1	10	1
	100.0	23.4	29.8	17.0	4.3	2.1	21.3	2.1
薬を飲ませること	12	1	2	3	1	1	3	1
	100.0	8.3	16.7	25.0	8.3	8.3	25.0	8.3
勉強をみること	150	37	52	19	2	3	35	2
	100.0	24.7	34.7	12.7	1.3	2.0	23.3	1.3
遊び相手	184	43	54	29	5	5	47	1
	100.0	23.4	29.3	15.8	2.7	2.7	25.5	0.5
保育所・幼稚園・学童保育・習い事などの送り迎え	53	9	13	10	4	4	12	1
	100.0	17.0	24.5	18.9	7.5	7.5	22.6	1.9
その他	32	15	12	1	-	-	4	-
	100.0	46.9	37.5	3.1	-	-	12.5	-

(複数回答)

(1)で「している」を選んだ方

⑤手伝いや世話をすることによる生活上の変化〔問15〕

手伝いや世話をすることによる生活上の変化について、「特に変化はない」が中学生では37.7%、高校生では41.5%となっている。逆に中学生の58.8%、高校生の56.3%には何らかの変化があり、その変化は「人を思いやる気持ちが強くなった」(中学生40.8%、高校生38.1%)が最も多くなっている。次いで「人からほめられることが多くなった」(中学生29.9%、高校生29.6%)、「一緒に暮らしている人とのつながりが強くなった」(中学生26.2%、高校生21.9%)が続いている。



トイレの手助けやおむつの交換、衣服の着脱、移動の手助け、服薬の手助けなど介護・介助に関する手伝いや世話による生活の変化として、「人を思いやる気持ちが強くなった」をはじめ、「人からほめられることが多くなった」や「一緒に暮らしている人とのつながりが強くなった」「困ったことがあっても自分で乗り越える意志が強くなった」「近所の人と交流することが増えた」「困っている人に進んで手助けをするようになった」を挙げる割合が全体を上回っており、プラスの効果が大きくなっている。一方で、「友だちづきあいや近所づきあいが少なくなった」や「食欲がなくなる、疲れるなど体調がわるくなった」「進学または就職がしにくいと感じるようになった」などマイナスの変化があったと回答している人も少数ではあるが存在している。

□介護・介助に関する手伝いや世話による生活上の変化

(上段：回答者数 下段：%)

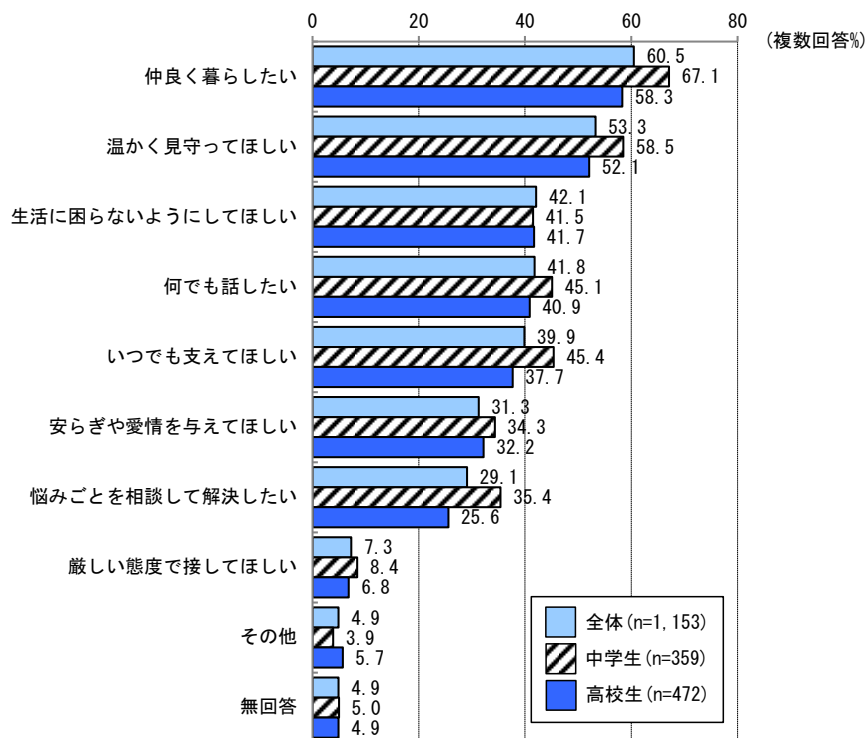
	n	人を思いやる気持ちが強くなった	友だちづきあいや近所づきあいが少なくなった	人からほめられることが多くなった	身だしなみを気にしなくなった	一緒に暮らしている人とのつながりが強くなった	食欲がなくなる、疲れるなど体調がわるくなった	食意が強くなくなった	困ったことがあっても自分で乗り越える意志が強くなった	授業中ねむくなったり、勉強に集中できなくなったり	遅刻や早退が多くなった	近所の人と交流することが増えた	病気以外の理由による欠席が多くなった	困っている人に進んで手助けをするようになった	よう学または就職がしにくいと感じるようになった	その他	特に変化はない	無回答
全体	730	295	39	218	32	176	22	122	55	14	77	10	129	22	11	276	24	
	100.0	40.4	5.3	29.9	4.4	24.1	3.0	16.7	7.5	1.9	10.5	1.4	17.7	3.0	1.5	37.8	3.3	
買い物	351	163	23	130	21	94	15	73	29	9	52	6	77	13	2	112	14	
	100.0	46.4	6.6	37.0	6.0	26.8	4.3	20.8	8.3	2.6	14.8	1.7	21.9	3.7	0.6	31.9	4.0	
食事の手助け	180	85	12	74	8	58	6	43	15	4	26	-	40	8	2	55	4	
	100.0	47.2	6.7	41.1	4.4	32.2	3.3	23.9	8.3	2.2	14.4	-	22.2	4.4	1.1	30.6	2.2	
料理や食事の後片付け	489	207	22	161	19	123	16	90	34	9	57	6	98	14	8	172	17	
	100.0	42.3	4.5	32.9	3.9	25.2	3.3	18.4	7.0	1.8	11.7	1.2	20.0	2.9	1.6	35.2	3.5	
入浴の手助け	109	45	6	44	4	31	4	20	10	2	14	1	26	7	1	35	5	
	100.0	41.3	5.5	40.4	3.7	28.4	3.7	18.3	9.2	1.8	12.8	0.9	23.9	6.4	0.9	32.1	4.6	
洗濯	361	161	27	135	20	91	13	74	33	8	42	4	74	12	4	116	16	
	100.0	44.6	7.5	37.4	5.5	25.2	3.6	20.5	9.1	2.2	11.6	1.1	20.5	3.3	1.1	32.1	4.4	
掃除	411	169	24	144	19	114	14	92	39	10	54	5	88	16	4	138	12	
	100.0	41.1	5.8	35.0	4.6	27.7	3.4	22.4	9.5	2.4	13.1	1.2	21.4	3.9	1.0	33.6	2.9	
トイレの手助け	24	12	3	13	2	9	1	11	1	-	7	1	12	2	2	2	3	
	100.0	50.0	12.5	54.2	8.3	37.5	4.2	45.8	4.2	-	29.2	4.2	50.0	8.3	8.3	8.3	12.5	
おむつの交換	19	12	4	9	1	8	-	8	1	-	5	-	6	1	1	3	-	
	100.0	63.2	21.1	47.4	5.3	42.1	-	42.1	5.3	-	26.3	-	31.6	5.3	5.3	15.8	-	
衣服を着せたり脱がせたりすること	42	24	6	20	4	13	3	14	5	2	9	1	13	5	2	7	2	
	100.0	57.1	14.3	47.6	9.5	31.0	7.1	33.3	11.9	4.8	21.4	2.4	31.0	11.9	4.8	16.7	4.8	
室内の移動の手助け	20	10	3	9	3	5	1	9	1	-	5	-	7	1	-	7	-	
	100.0	50.0	15.0	45.0	15.0	25.0	5.0	45.0	5.0	-	25.0	-	35.0	5.0	-	35.0	-	
外出時の移動の手助け	47	26	5	26	3	17	2	14	2	2	14	1	14	3	1	13	2	
	100.0	55.3	10.6	55.3	6.4	36.2	4.3	29.8	4.3	4.3	29.8	2.1	29.8	6.4	2.1	27.7	4.3	
薬を飲ませること	12	9	5	6	2	3	-	5	1	1	3	-	3	2	-	1	1	
	100.0	75.0	41.7	50.0	16.7	25.0	-	41.7	8.3	8.3	25.0	-	25.0	16.7	-	8.3	8.3	
勉強をみること	150	67	10	52	8	51	2	35	11	3	31	-	40	7	-	54	5	
	100.0	44.7	6.7	34.7	5.3	34.0	1.3	23.3	7.3	2.0	20.7	-	26.7	4.7	-	36.0	3.3	
遊び相手	184	90	17	69	11	69	5	41	18	3	31	2	51	10	2	58	3	
	100.0	48.9	9.2	37.5	6.0	37.5	2.7	22.3	9.8	1.6	16.8	1.1	27.7	5.4	1.1	31.5	1.6	
保育所・幼稚園・学童保育・習い事などの送り迎え	53	26	7	21	3	19	-	14	4	1	10	1	16	4	1	13	5	
	100.0	49.1	13.2	39.6	5.7	35.8	-	26.4	7.5	1.9	18.9	1.9	30.2	7.5	1.9	24.5	9.4	
その他	32	13	1	6	1	7	1	3	5	-	2	1	4	4	2	12	2	
	100.0	40.6	3.1	18.8	3.1	21.9	3.1	9.4	15.6	-	6.3	3.1	12.5	12.5	6.3	37.5	6.3	

(複数回答)

3 一緒に暮らしている人や自身に対する考え方や見方について

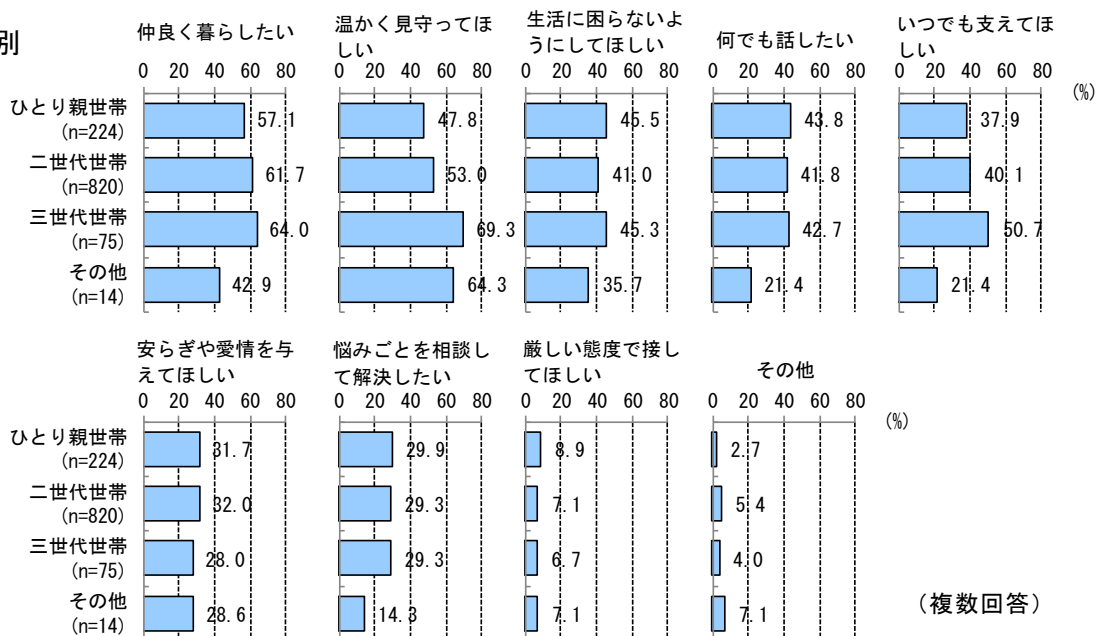
(1) 一緒に暮らしている人に期待したいこと〔問16〕

一緒に暮らしている人に期待することは、中学生、高校生とも「仲良く暮らしたい」（中学生67.1%、高校生58.3%）が最も多く、次いで「温かく見守ってほしい」（中学生58.5%、高校生52.1%）となっている。これらに次いで、中学生では「何でも話したい」（45.1%）、「いつでも支えてほしい」（45.4%）が多く、高校生は「生活に困らないようにしてほしい」（41.7%）が多くなっている。また、「悩みごとを相談して解決したい」は、高校生（25.6%）に比べ中学生（35.4%）の割合のほうが約10ポイント高くなっている。



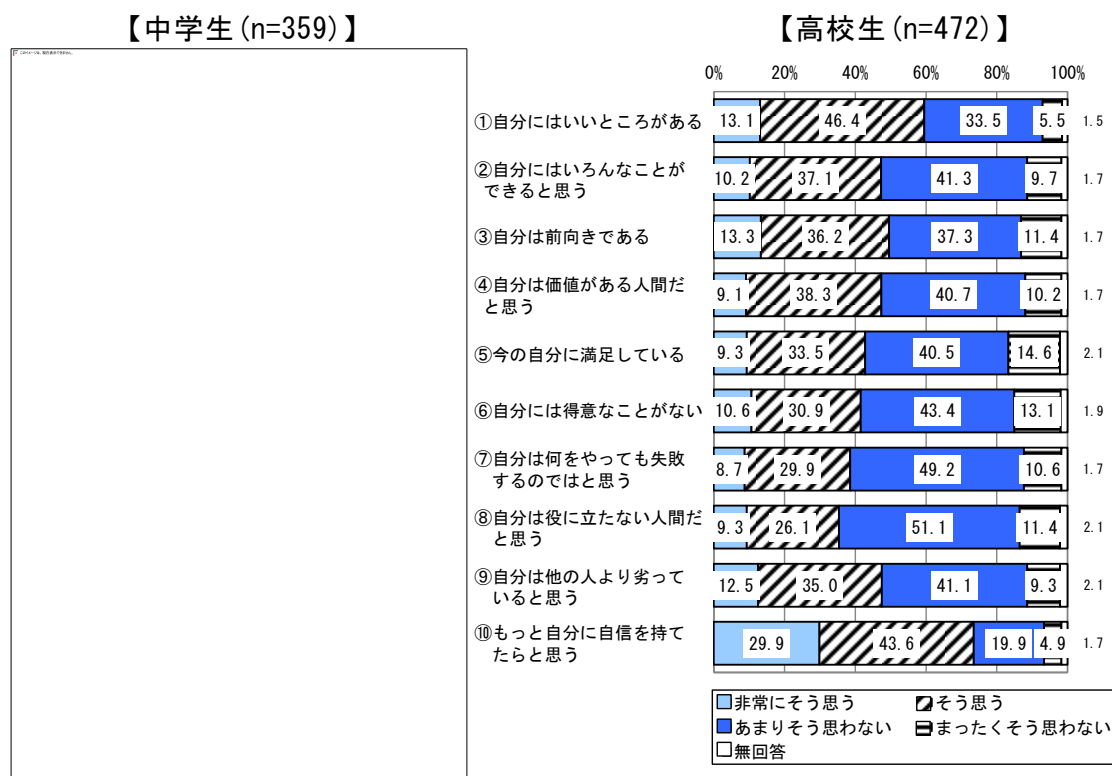
家族構成別では、「仲良く暮らしたい」「温かく見守ってほしい」の割合は、ひとり親世帯が最も低くなっている。

□ 家族構成別



(2) 自分自身のことに対する見方〔問17〕

『そう思う』（「非常にそう思う」と「そう思う」の割合の合計）と『そう思わない』（「まったくそう思わない」と「あまりそう思わない」の割合の合計）との差をみると、中学生、高校生とも「⑩もっと自分に自信を持てたらと思う」が『そう思わない』に比べ『そう思う』のほうが40ポイント上回っている。また、「⑤今の自分に満足している」については、中学生・高校生とも『そう思わない』が『そう思う』を10ポイント前後上回っている。



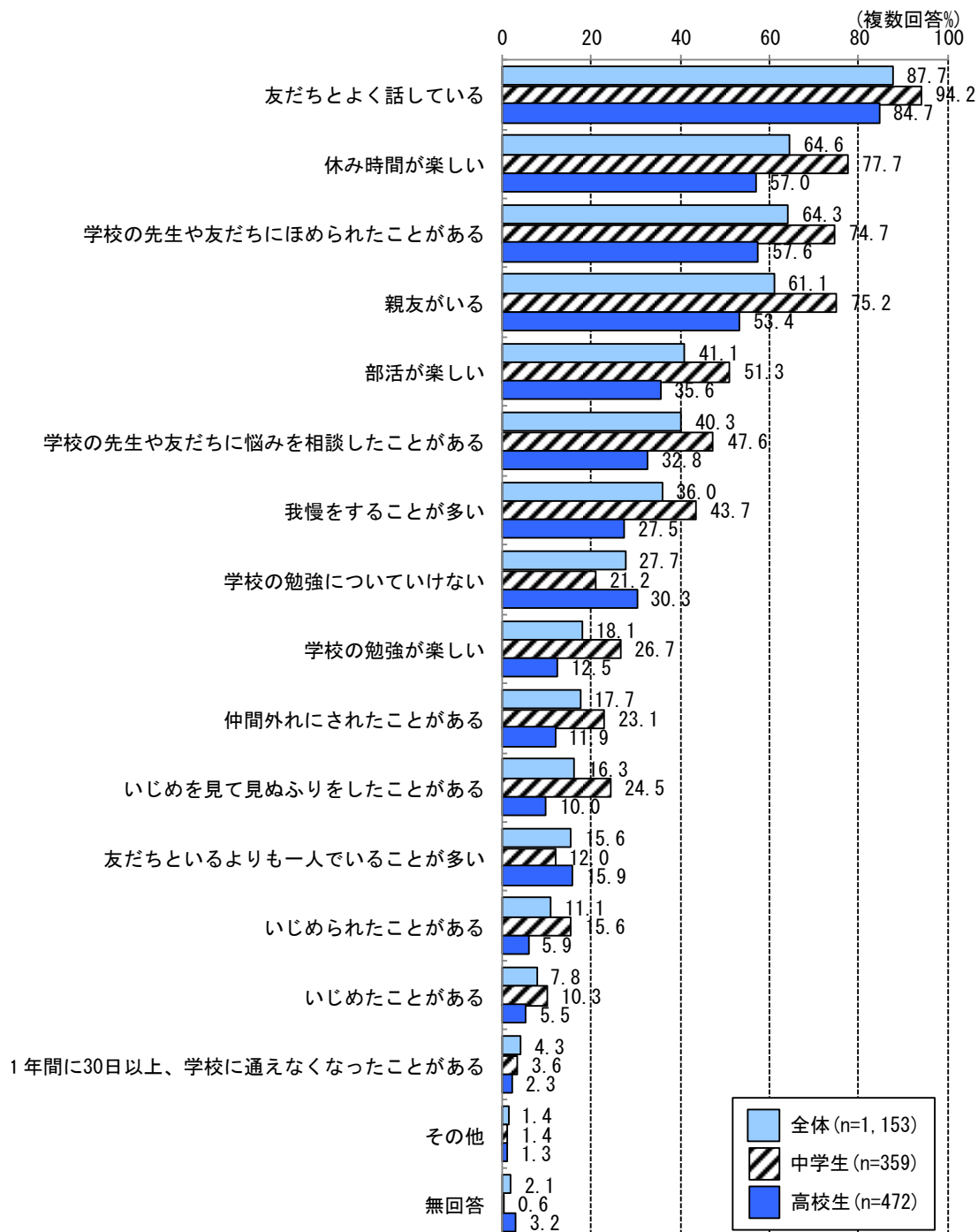
□ 『そう思う』計と『そう思わない』計の差（①～⑤は a - b、⑥～⑩は b - a）
（%）

	a そう思う	b そう思わない	a と b との差	
中学生	①自分にはいいところがある	59.6	39.0	20.6
	②自分にはいろんなことができると思う	54.0	44.6	9.4
	③自分は前向きである	59.0	39.3	19.7
	④自分は価値がある人間だと思う	48.2	50.1	▲ 1.9
	⑤今の自分に満足している	44.6	53.8	▲ 9.2
	⑥自分には得意なことがない	24.5	74.1	49.6
	⑦自分は何をやっても失敗するのではと思う	29.8	68.8	39.0
	⑧自分は役に立たない人間だと思う	26.2	71.5	45.3
	⑨自分は他の人より劣っていると思う	34.8	63.2	28.4
	⑩もっと自分に自信を持てたらと思う	71.6	27.0	▲ 44.6
高校生	①自分にはいいところがある	59.5	39.0	20.5
	②自分にはいろんなことができると思う	47.3	51.0	▲ 3.7
	③自分は前向きである	49.5	48.7	0.8
	④自分は価値がある人間だと思う	47.4	50.9	▲ 3.5
	⑤今の自分に満足している	42.8	55.1	▲ 12.3
	⑥自分には得意なことがない	41.5	56.5	15.0
	⑦自分は何をやっても失敗するのではと思う	38.6	59.8	21.2
	⑧自分は役に立たない人間だと思う	35.4	62.5	27.1
	⑨自分は他の人より劣っていると思う	47.5	50.4	2.9
	⑩もっと自分に自信を持てたらと思う	73.5	24.8	▲ 48.7

4 学校での過ごし方について

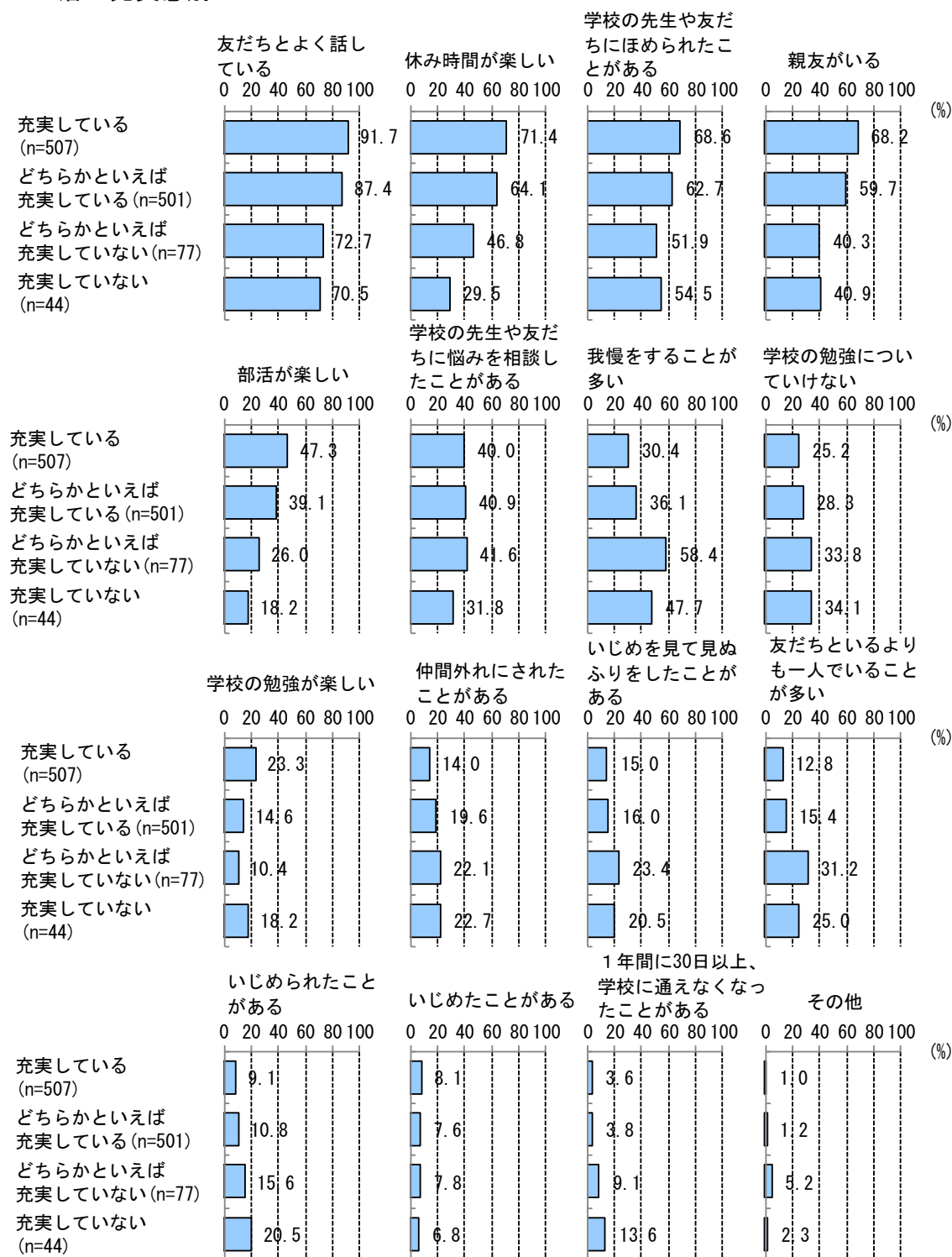
(1) 今までに学校で経験したこと〔問18〕

今までに学校で経験したことは、中学生、高校生とも「友だちとよく話している」（中学生94.2%、高校生84.7%）が最も多い。これに次いで「休み時間が楽しい」（中学生77.7%、高校生57.0%）で高校生の割合が低い。以下、「学校の先生や友だちにほめられたことがある」（中学生74.7%、高校生57.6%）、「親友がいる」（中学生75.2%、高校生53.4%）などが続く。「学校の勉強についていけない」「友だちといるよりも一人であることが多い」を除く項目では、高校生の割合が低くなっている。



現在の生活が充実していないと回答した中高生は、「友だちとよく話している」や「休み時間が楽しい」「部活が楽しい」の各割合が低い。逆に「我慢をすることが多い」「学校の勉強についていけない」「友だちといるよりも一人でいることが多い」「いじめられたことがある」「1年間に30日以上、学校に通えなくなったことがある」の各割合が高くなっている。

□生活の充実感別

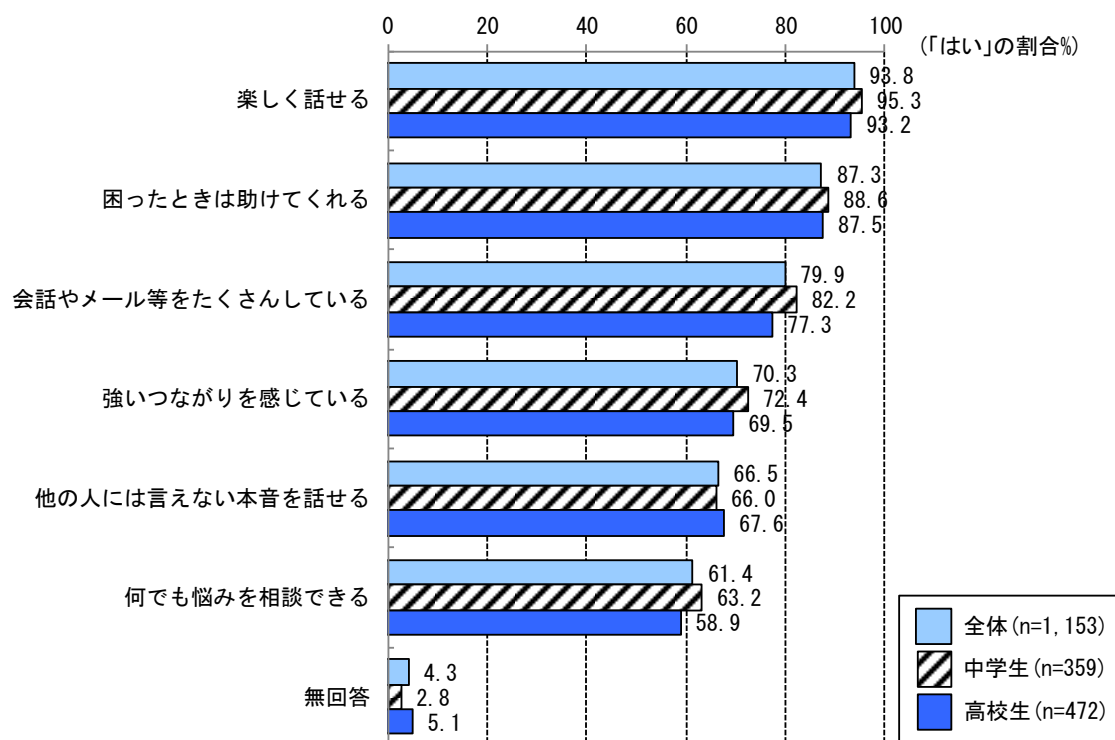


(複数回答)

(2) 学校で出会った友だちとのかかわり〔問19〕

学校で出会った友だちとのかかわりの状況をみると、中学生、高校生とも「楽しく話せる」(中学生95.3%、高校生93.2%)、「困った時は助けてくれる」(中学生88.6%、高校生87.5%)、「会話やメール等をたくさんしている」(中学生82.2%、高校生77.3%)が上位となっている。

「他の人には言えない本音を話せる」(中学生66.0%、高校生67.6%)や「何でも悩みを相談できる」(中学生63.2%、高校生58.9%)は下位となっている。

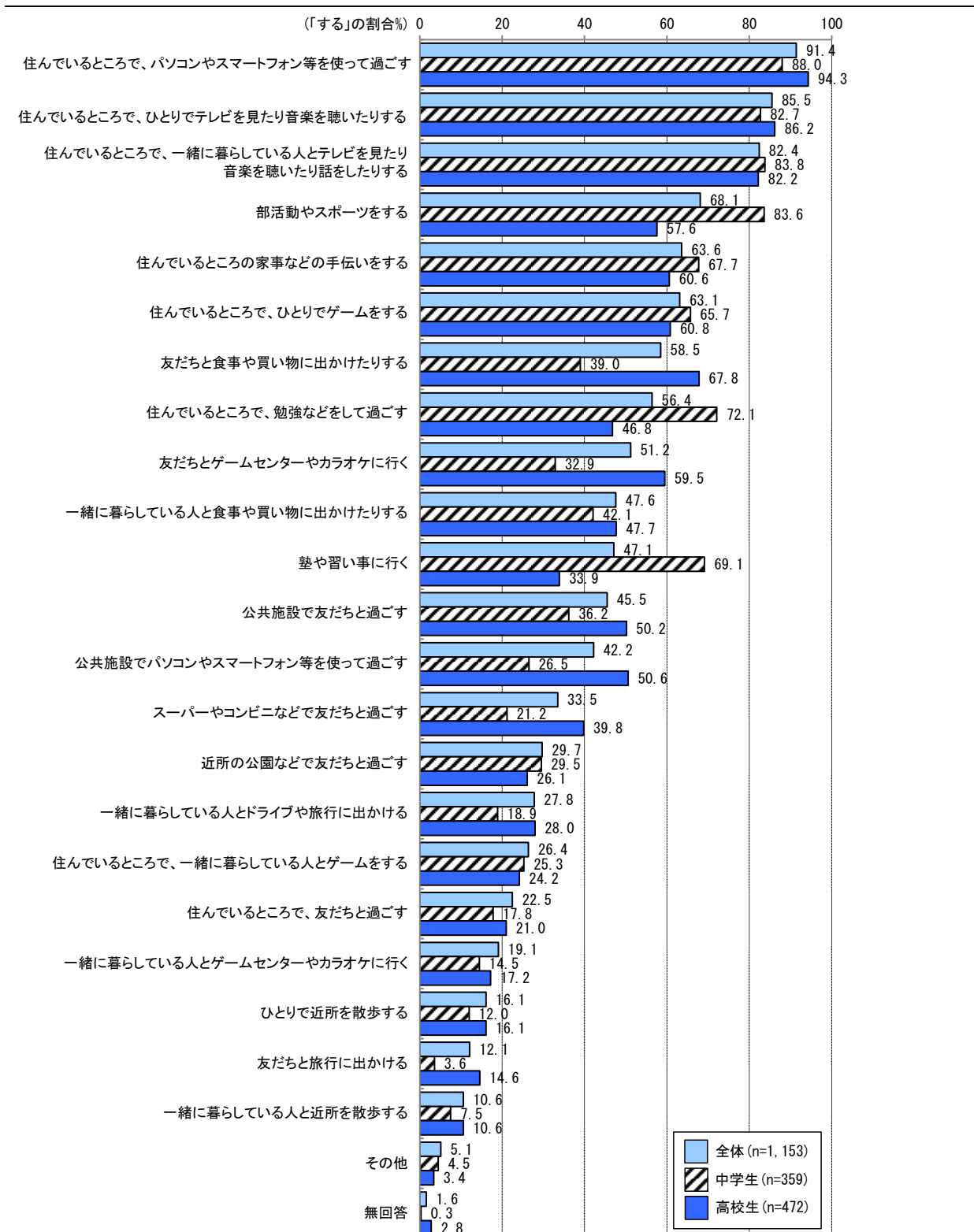


5 ふだんの過ごし方などについて

(1) 学校以外の時間の過ごし方〔問20〕

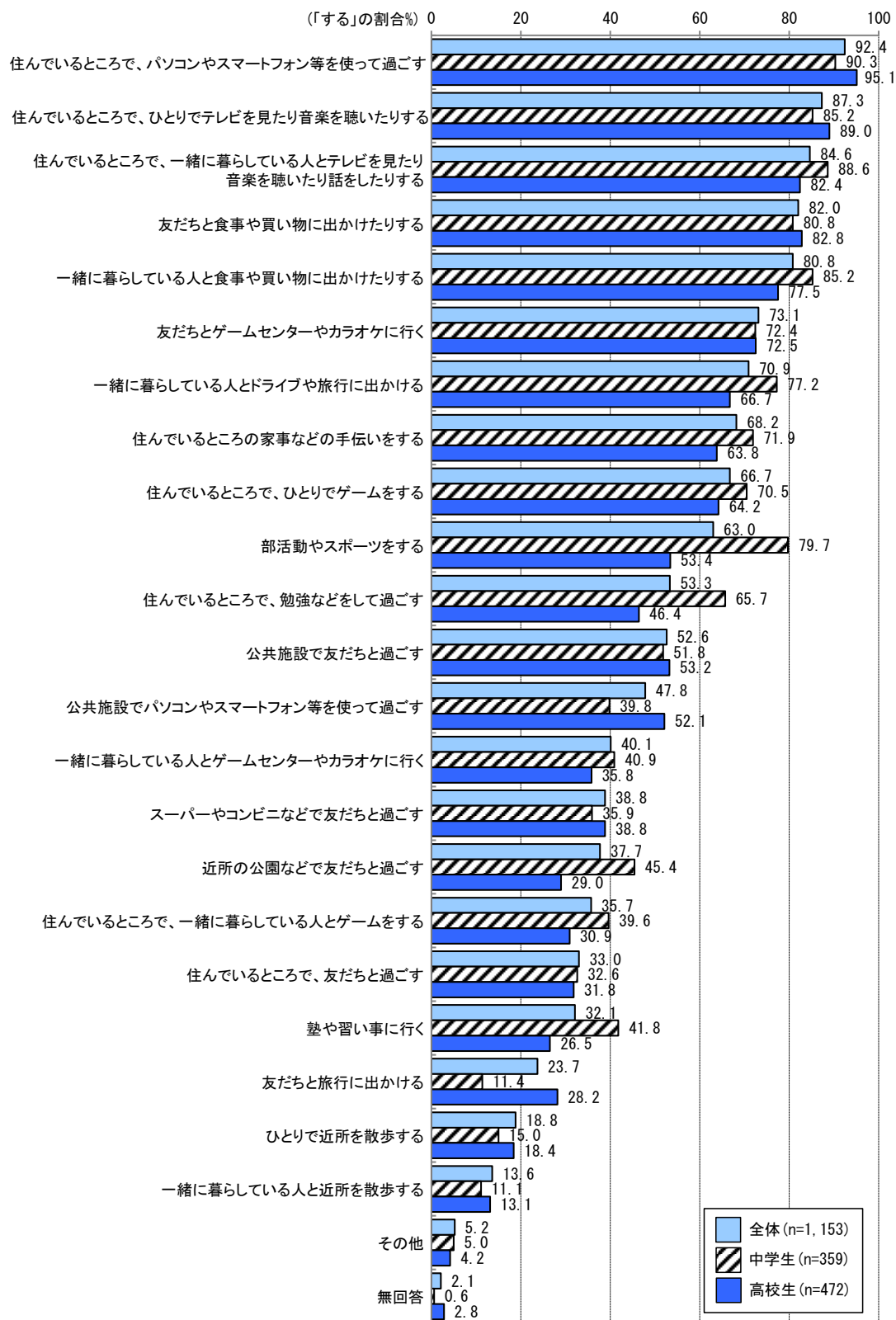
(ア) 平日の学校以外の時間

中学生、高校生とも「住んでいるところで、パソコンやスマートフォンなどを使って過ごす」（中学生88.0%、高校生94.3%）が最も多い。また、「住んでいるところで、ひとりでテレビを見たり音楽を聴いたりする」（中学生82.7%、高校生86.2%）、「住んでいるところで、一緒に暮らしている人とテレビを見たり音楽を聴いたり話をしたりする」（中学生83.8%、高校生82.2%）が多くなっている。



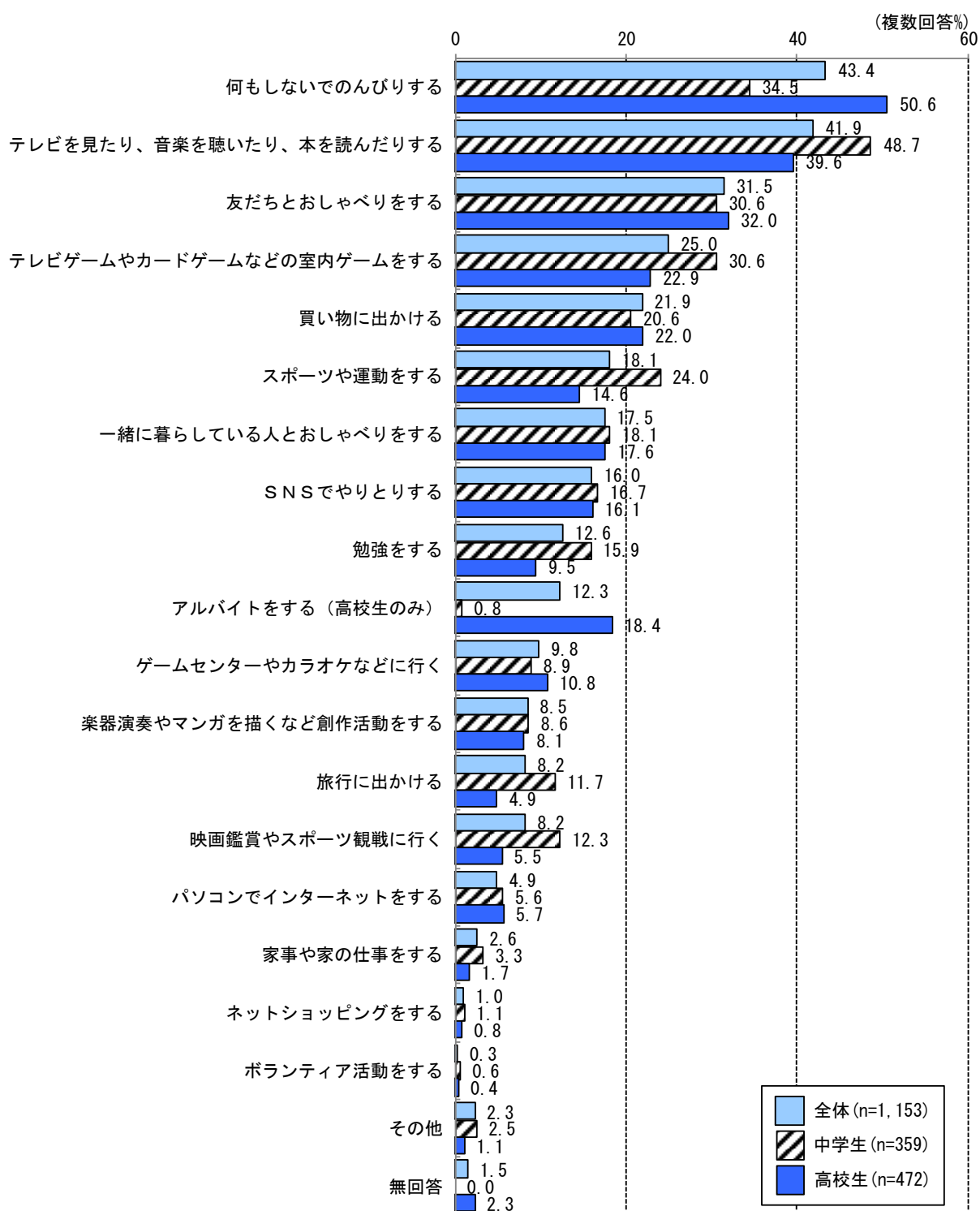
(イ) 休日

中学生、高校生とも「住んでいるところで、パソコンやスマートフォンなどを使って過ごす」(中学生90.3%、高校生95.1%)が最も多い。また、「住んでいるところで、ひとりでテレビを見たり音楽を聴いたりする」(中学生85.2%、高校生89.0%)、「住んでいるところで、一緒に暮らしている人とテレビを見たり音楽を聴いたり話をしたりする」(中学生88.6%、高校生82.4%)が多くなっている。



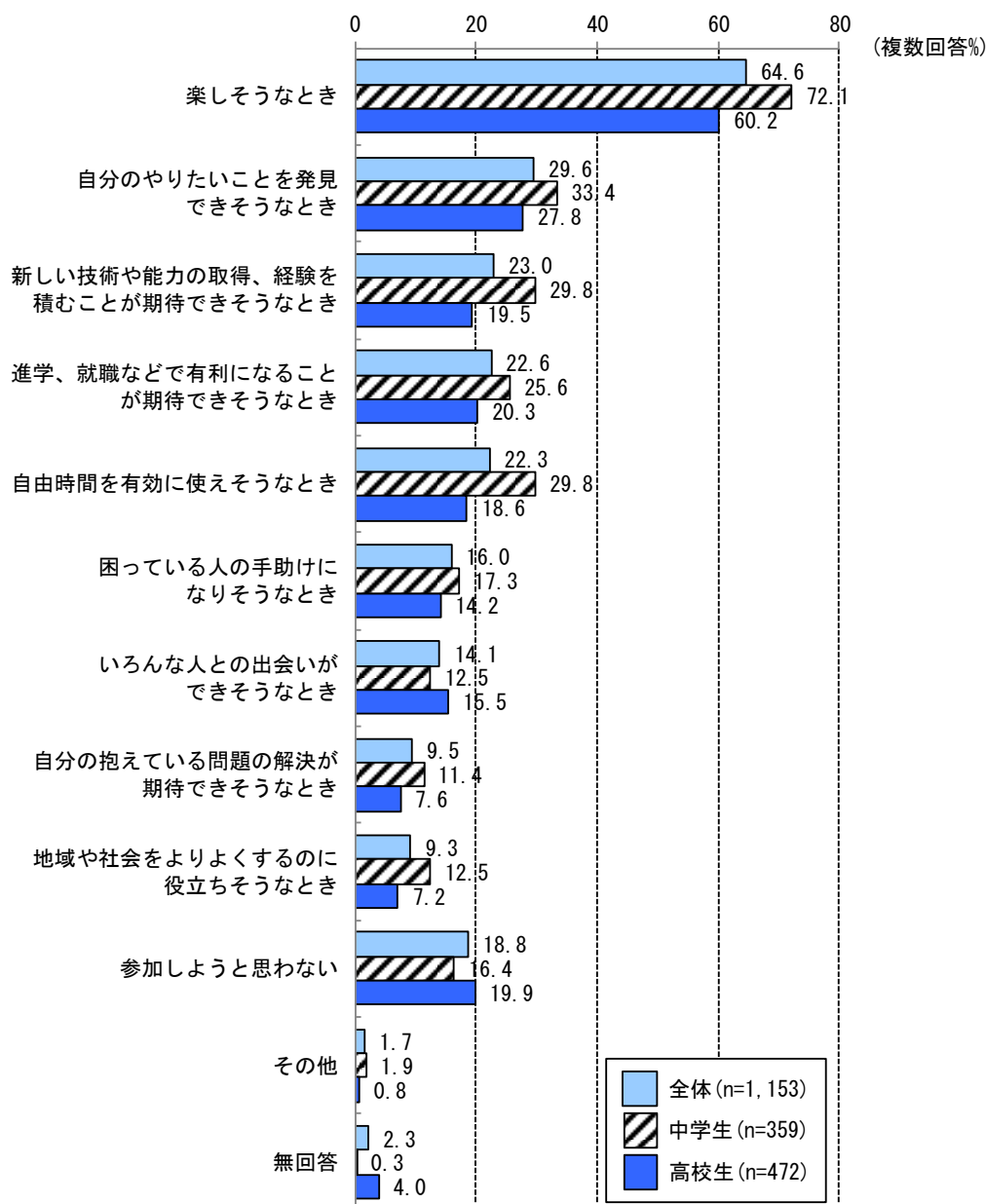
(2) 学校以外の時間の希望する過ごし方〔問21〕

高校生は「何もしないでのんびりする」が50.6%で最も多く、中学生は「テレビを見たり、音楽を聴いたり、本を読んだりする」が48.7%で最も多い。「テレビゲームやカードゲームなどの室内ゲームをする」(中学生30.6%、高校生22.9%)、「スポーツや運動をする」(中学生24.0%、高校生14.6%)、「勉強をする」(中学生15.9%、高校生9.5%)、「旅行に出かける」(中学生11.7%、高校生4.9%)、「映画鑑賞やスポーツ観戦に行く」(中学生12.3%、高校生5.5%)は中学生の割合が高くなっている。



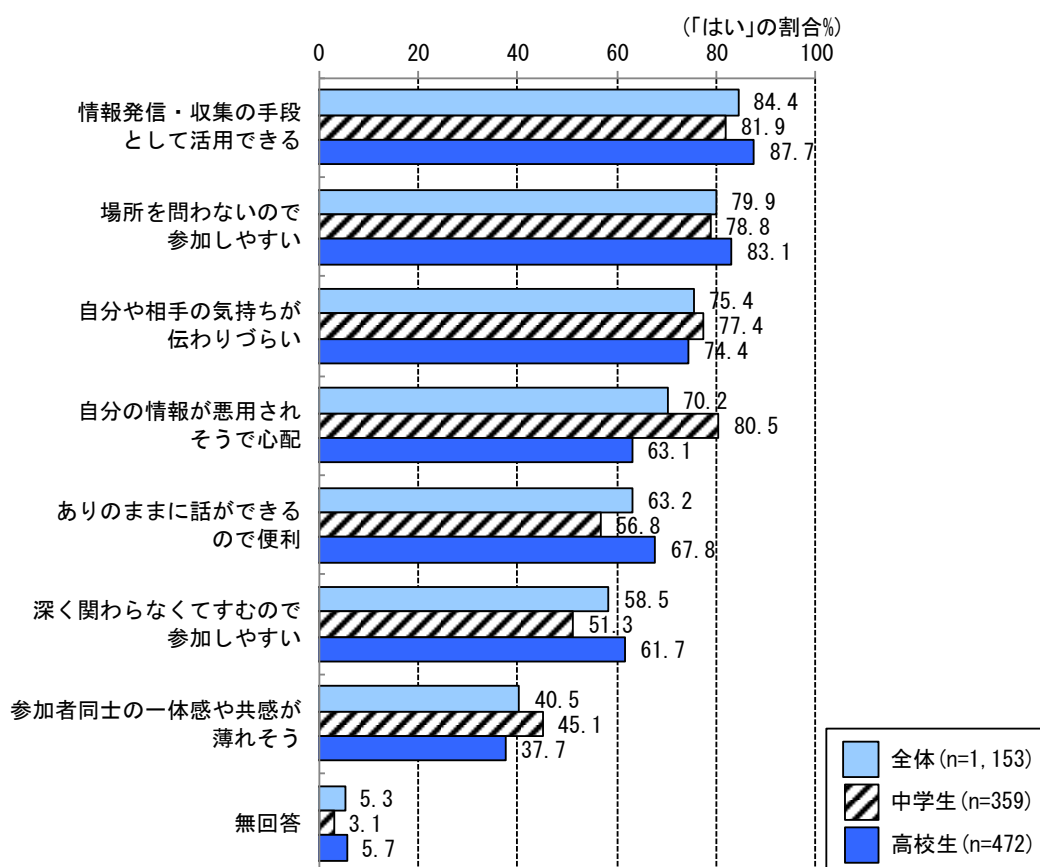
(3) 学校以外の活動に参加したいと思うきっかけ〔問22〕

中学生、高校生とも「楽しそうなとき」(中学生72.1%、高校生60.2%)が最も多く、次いで「自分のやりたいことを発見できそうなとき」(中学生33.4%、高校生27.8%)で、中学生は「新しい技術や能力の取得、経験を積むことが期待できそうなとき」「自由時間を有効に使いそうなとき」(各29.8%)、高校生は「進学、就職などで有利になることが期待できそうなとき」(20.3%)となっている。



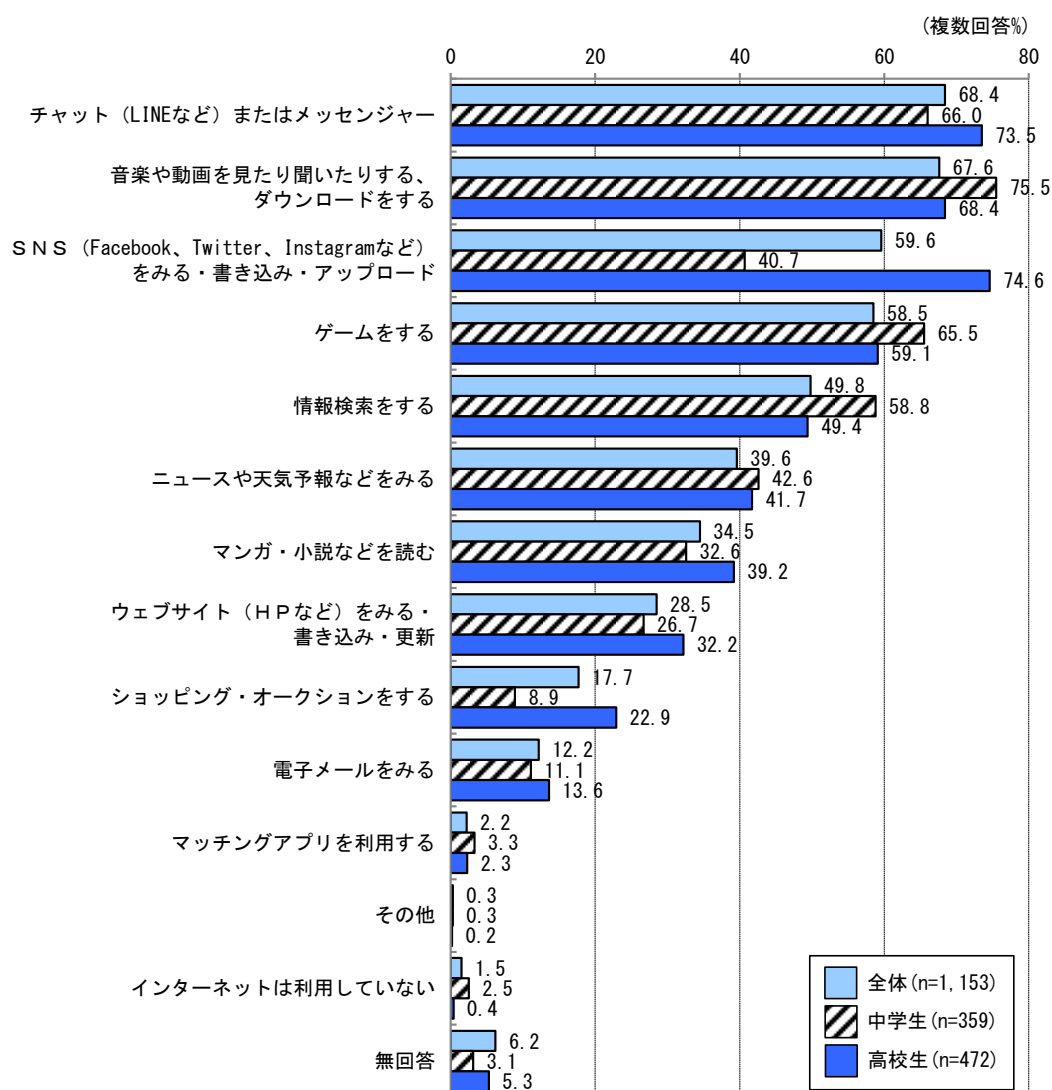
(4) SNSを利用してコミュニケーションをとることについての考え〔問23〕

SNSを利用してコミュニケーションをとることについて、中学生、高校生とも「情報発信・収集の手段として活用できる」（中学生81.9%、高校生87.7%）が最も多い。これに次いで中学生では「自分の情報が悪用されそうで心配」（80.5%）が、高校生は「場所を問わないので参加しやすい」（83.1%）となっている。情報の悪用への不安は中学生の割合が高校生に比べ高くなっている。高校生では「ありのままに話ができるので便利」（67.8%）や「深く関わらなくてすむので参加しやすい」（61.7%）が中学生に比べ高くなっている。



(5) インターネットの利用目的〔問24〕

中学生は、「音楽や動画を見たり聞いたりする、ダウンロードをする」(75.5%) が最も多くなっている。高校生は「チャット (LINEなど) またはメッセージ」(73.5%) や「SNS (Facebook、Twitter、Instagramなど) をみる・書き込み・アップロード」(74.6%) が多い。特にSNSは中学生に比べ高校生のほうが33.9ポイント高い。また、「ショッピング・オークションをする」も中学生(8.9%) に比べ高校生の割合(22.9%) のほうが高くなっている。

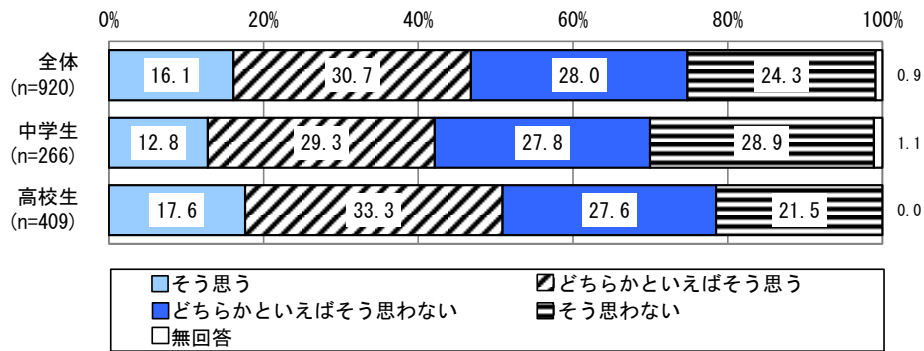


(5)で「SNSをみる・書き込み・アップロード」「ウェブサイトを見る・書き込み・更新」「チャットまたはメッセージ」のいずれかを選んだ方

(6) インターネットやSNSを利用した他者とのかかわり方に対する考え〔問25〕

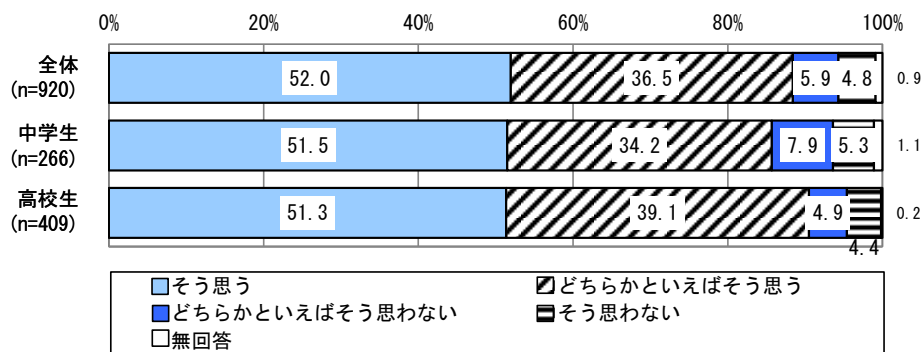
①何でも悩みを相談できる

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した『そう思う』の割合は、中学生が42.1%に対して高校生は50.9%で、高校生の割合が高くなっている。逆に中学生の56.7%は『そう思わない』（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）と回答している。



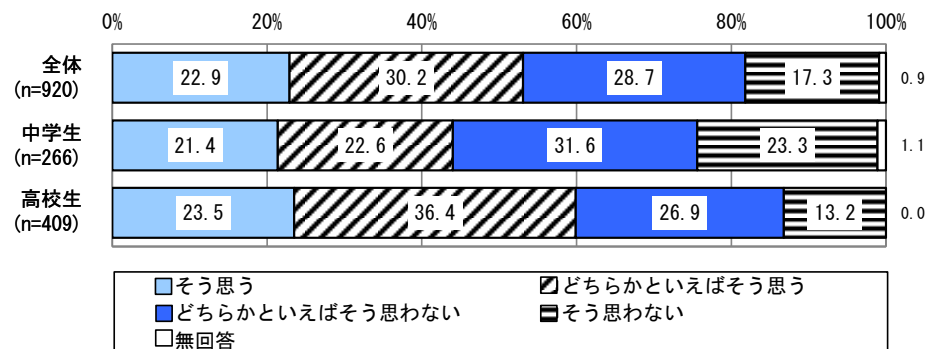
②楽しく話せる

中学生、高校生とも「そう思う」が5割で、『そう思う』の割合が各々8～9割を占めている。



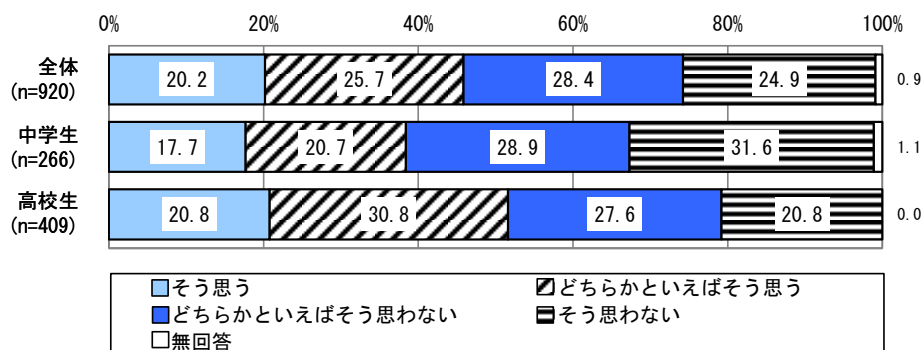
③困ったときは助けてくれる

『そう思う』の割合は、中学生が44.0%に対して高校生は59.9%で、高校生の割合が高くなっている。逆に中学生の54.9%は『そう思わない』と回答している。



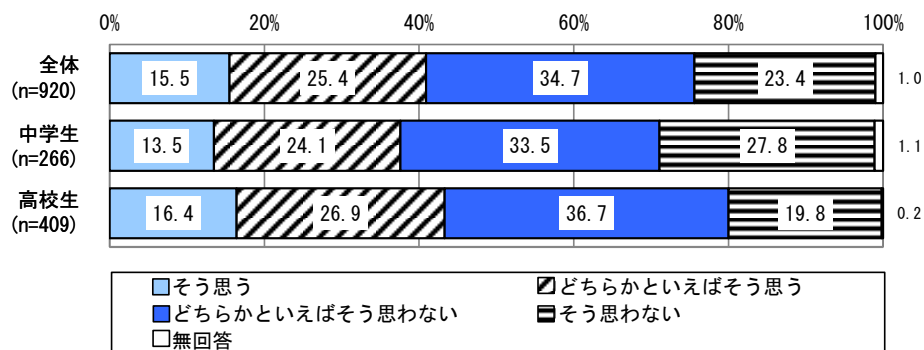
④他の人には言えない本音を話せる

『そう思う』の割合は、中学生が38.4%に対して高校生は51.6%で、高校生の割合が高くなっている。逆に中学生の60.5%は『そう思わない』と回答している。



⑤強いつながりを感じる

『そう思う』の割合は、中学生が37.6%に対して高校生は43.3%で、高校生の割合が高くなっている。逆に中学生の61.3%は『そう思わない』と回答している。



(7) ふだんの生活の中でのコミュニケーションの手段・方法〔問26〕

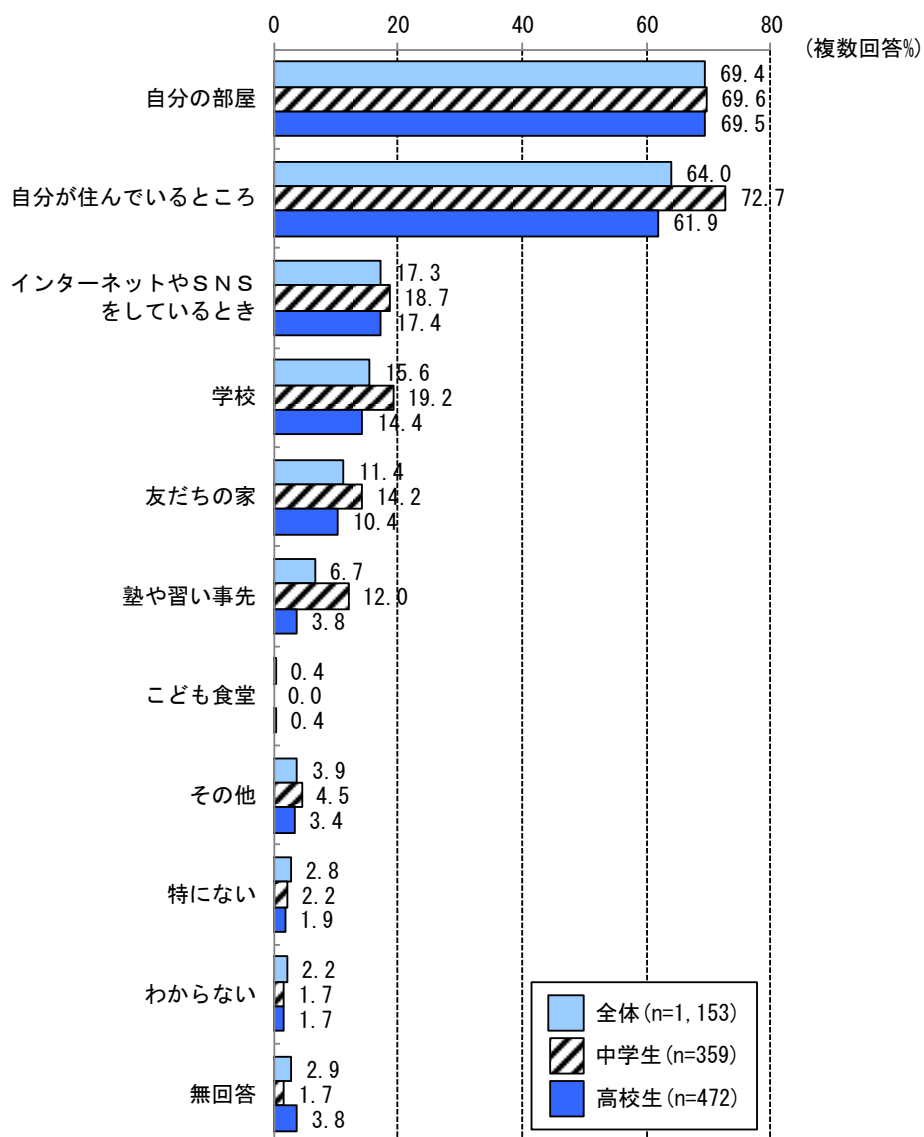
中学生は、①親、②きょうだい、④ 学校で仲の良い友だち、⑧学校の先生、⑨塾や習い事の先生に対しては、「直接会って話す」が多く、特に①親、②きょうだい、⑧学校の先生では8割前後を占めている。⑤学校で仲の良い友だち（異性）、⑥学校以外で仲の良い友だち（同性）、⑦学校以外で仲の良い友だち（異性）に対しては「メールやSNSでやりとりする」が多い。高校生の場合も中学生と同様の傾向がみられるが、⑤学校で仲の良い友だち（異性）については「直接会って話す」が多くなっている。

(%)

		直接会って話す		電話でも話す（テレビ		メールやSNSでやりとりする		ウェブサイトでやりとりする		ゲーム内でやりとりする		ソーシャルメディア（SNS）でやりとりする		その他		無回答	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
中学生 (n=359)	①親	320	89.1	8	2.2	8	2.2	-	-	-	-	3	0.8	20	5.6		
	②きょうだい	288	80.2	5	1.4	11	3.1	-	-	-	-	37	10.3	18	5.0		
	③同居していない親族	81	22.6	138	38.4	87	24.2	-	-	-	-	31	8.6	22	6.1		
	④学校で仲の良い友だち(同性)	227	63.2	23	6.4	76	21.2	-	-	6	1.7	9	2.5	18	5.0		
	⑤学校で仲の良い友だち(異性)	113	31.5	14	3.9	144	40.1	-	-	-	-	72	20.1	16	4.5		
	⑥学校以外で仲の良い友だち(同性)	87	24.2	33	9.2	168	46.8	-	-	9	2.5	43	12.0	19	5.3		
	⑦学校以外で仲の良い友だち(異性)	45	12.5	24	6.7	143	39.8	1	0.3	1	0.3	130	36.2	15	4.2		
	⑧学校の先生	285	79.4	15	4.2	2	0.6	-	-	-	-	49	13.6	8	2.2		
	⑨塾や習い事の先生	199	55.4	18	5.0	17	4.7	-	-	-	-	116	32.3	9	2.5		
	⑩インターネットやSNSで知り合った人	2	0.6	3	0.8	72	20.1	9	2.5	18	5.0	241	67.1	14	3.9		
	⑪その他の人	5	1.4	1	0.3	3	0.8	-	-	1	0.3	60	16.7	289	80.5		
高校生 (n=472)	①親	411	87.1	11	2.3	12	2.5	-	-	-	-	7	1.5	31	6.6		
	②きょうだい	365	77.3	9	1.9	22	4.7	-	-	-	-	42	8.9	34	7.2		
	③同居していない親族	126	26.7	138	29.2	126	26.7	-	-	-	-	52	11.0	30	6.4		
	④学校で仲の良い友だち(同性)	314	66.5	12	2.5	99	21.0	1	0.2	-	-	11	2.3	35	7.4		
	⑤学校で仲の良い友だち(異性)	196	41.5	10	2.1	150	31.8	1	0.2	1	0.2	82	17.4	32	6.8		
	⑥学校以外で仲の良い友だち(同性)	110	23.3	30	6.4	267	56.6	-	-	2	0.4	28	5.9	35	7.4		
	⑦学校以外で仲の良い友だち(異性)	74	15.7	22	4.7	242	51.3	1	0.2	1	0.2	104	22.0	28	5.9		
	⑧学校の先生	326	69.1	9	1.9	20	4.2	1	0.2	-	-	88	18.6	28	5.9		
	⑨塾や習い事の先生	160	33.9	12	2.5	30	6.4	-	-	-	-	241	51.1	29	6.1		
	⑩インターネットやSNSで知り合った人	31	6.6	12	2.5	164	34.7	2	0.4	8	1.7	225	47.7	30	6.4		
	⑪その他の人	14	3.0	5	1.1	3	0.6	-	-	-	-	62	13.1	388	82.2		

(8) ほっとしたり居心地がよいと感じる時や場所〔問27〕

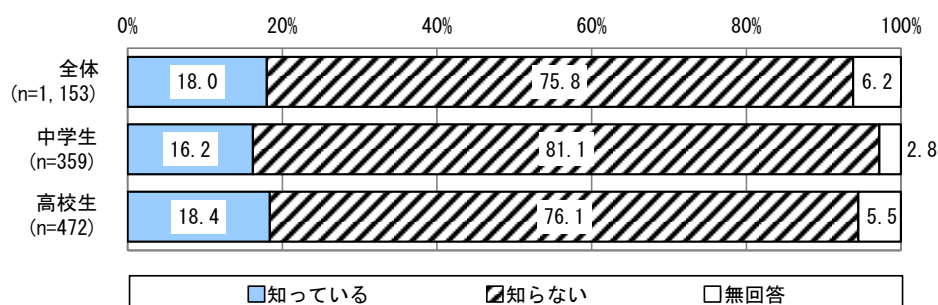
中学生は「自分の住んでいるところ」(72.7%)が、高校生は「自分の部屋」(69.5%)が最も多い。



(9) JKビジネスの認知状況

①認知状況〔問28〕

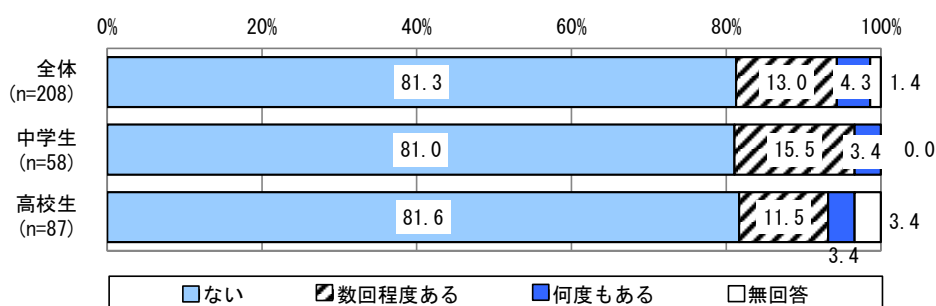
JKビジネスを「知っている」と回答した割合は、中学生が16.2%、高校生が18.4%となっている。



①で「知っている」を選んだ方

②知り合いの女子中高生でJKビジネスをしている人の見聞状況〔問29〕

JKビジネスをしている人を見たり聞いたりしたことがない割合は、中学生、高校生とも8割となっている。これに対し、数回または何度も見聞きしたことがあると回答した割合は中学生が18.9%、高校生が14.9%となっている。



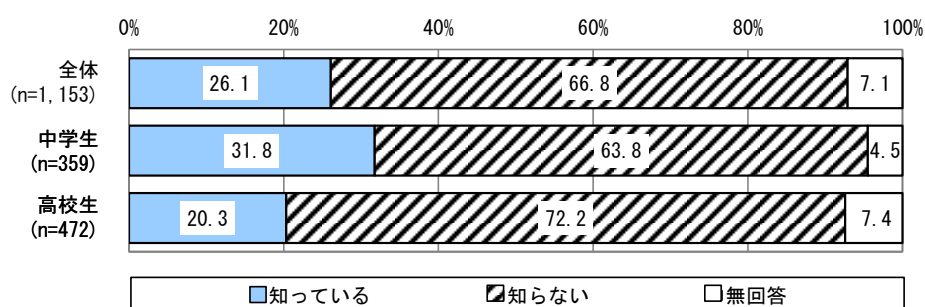
6 学校以外の公共施設について

(1) 認知（利用）状況・利用意向〔問30〕

(ア) 認知状況

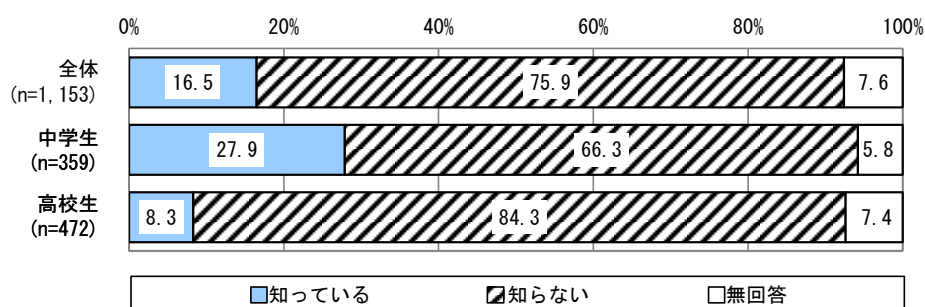
①上中条青少年センター

「知っている」割合は、中学生が31.8%、高校生が20.3%で中学生の認知率が高い。
また、3施設の中で、中学生の認知率が最も高い施設である。



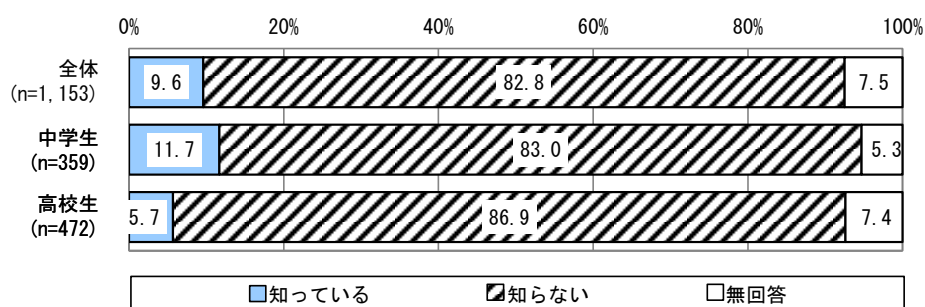
②多世代交流センター

「知っている」割合は、中学生が27.9%、高校生が8.3%で中学生の認知率が高い。



③ユースプラザ

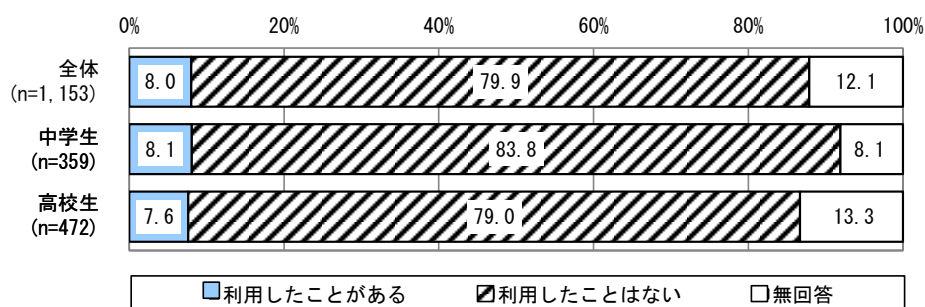
開設間もないため、3施設の中では認知率は最も低く、「知っている」割合は、中学生が11.7%、高校生が5.7%となっている。



(イ) 利用経験

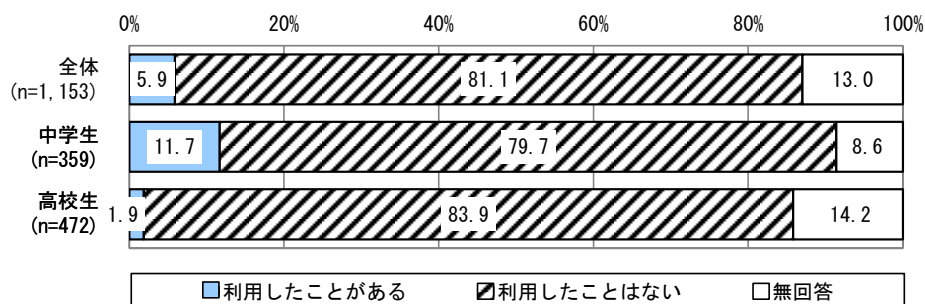
①上中条青少年センター

「利用したことがある」割合は、中学生が8.1%、高校生が7.6%で両者の差はほとんどなく、8割前後は「利用したことはない」と回答している。



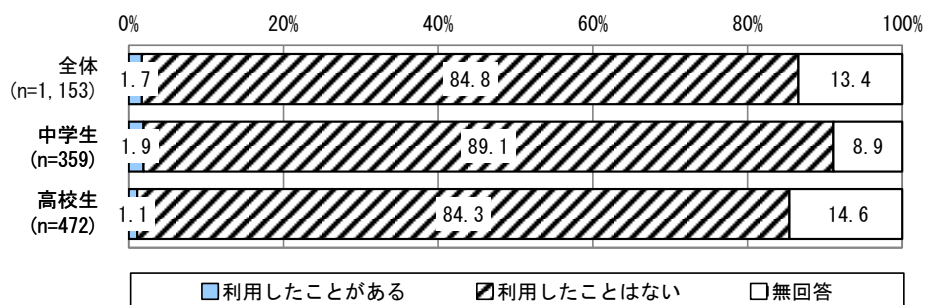
②多世代交流センター

「利用したことがある」割合は、中学生が11.7%、高校生が1.9%で中学生の割合が高い。



③ユースプラザ

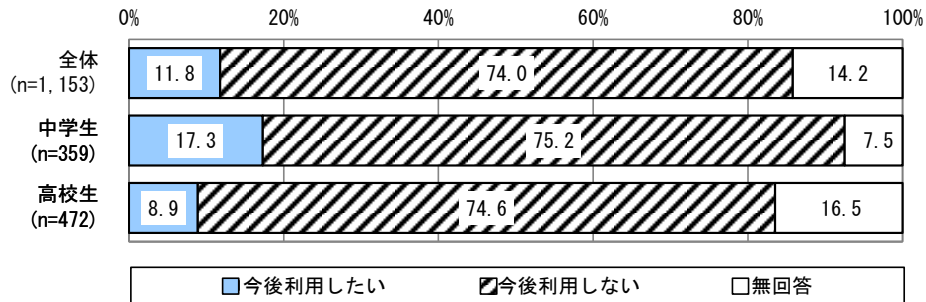
「利用したことがある」割合は、中学生が1.9%、高校生が1.1%と、いずれも利用者は少数である。



(ウ) 利用意向

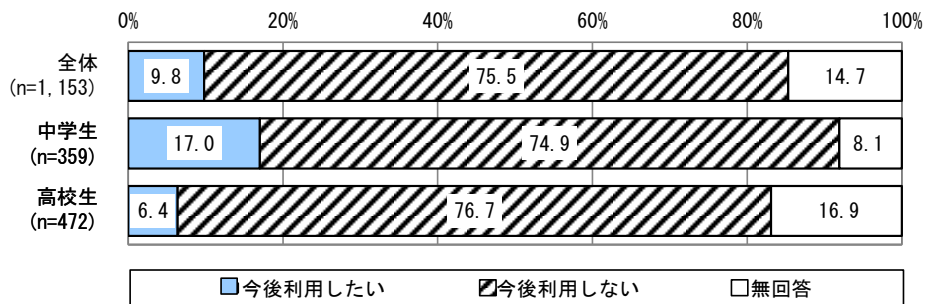
①上中条青少年センター

「今後利用したい」割合は、中学生が17.3%、高校生が8.9%となっている。



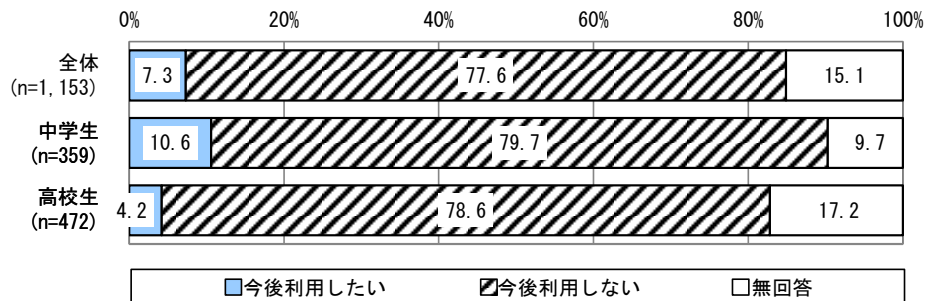
②多世代交流センター

「今後利用したい」割合は、中学生が17.0%、高校生が6.4%となっている。



③ユースプラザ

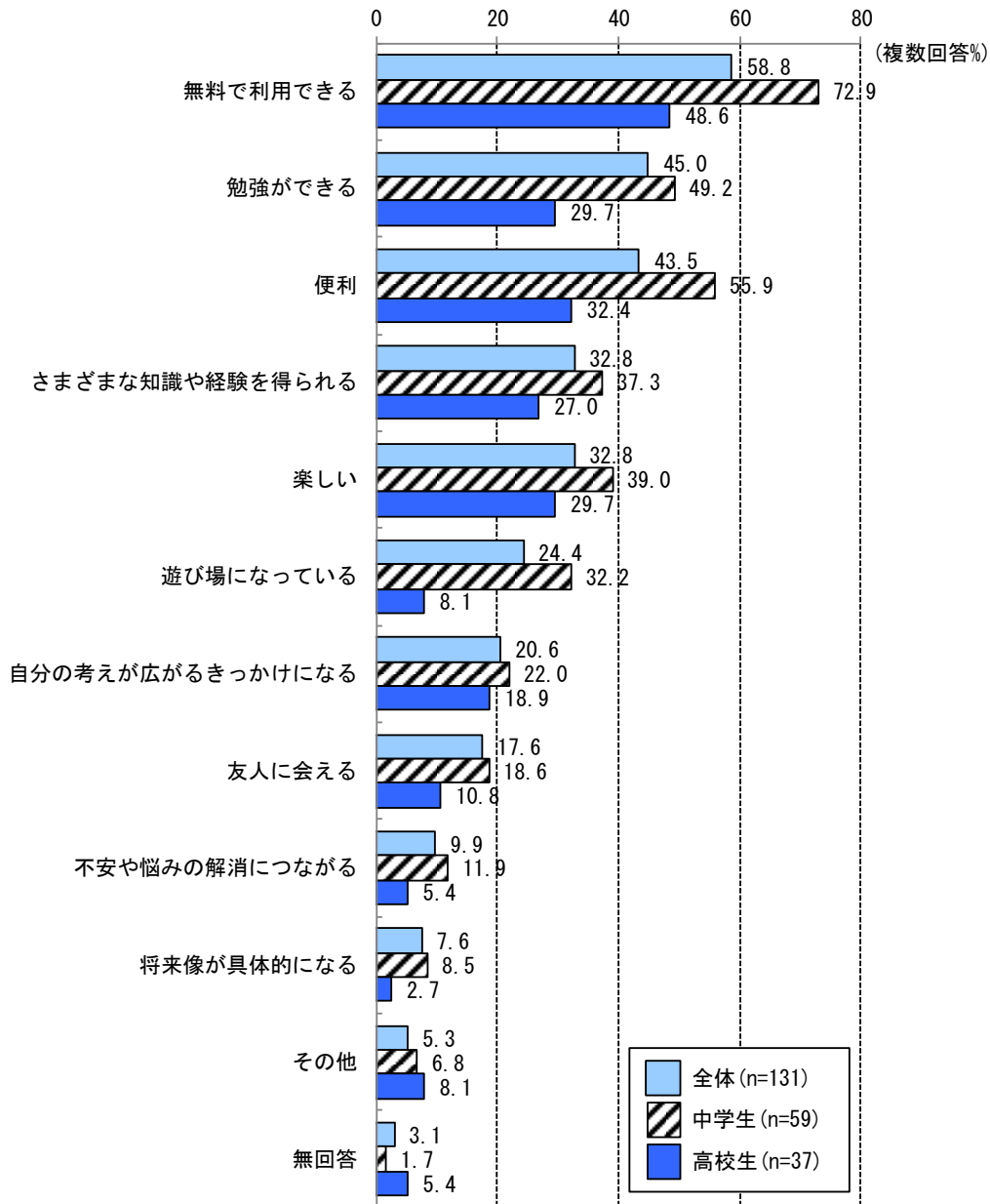
「今後利用したい」割合は、中学生が10.6%、高校生が4.2%となっている。



(1) (イ) 利用経験で、①～③の施設のいずれか1つでも「利用したことがある」を選んだ方

(2) 学校以外の市内の公共施設の利用の利点〔問31〕

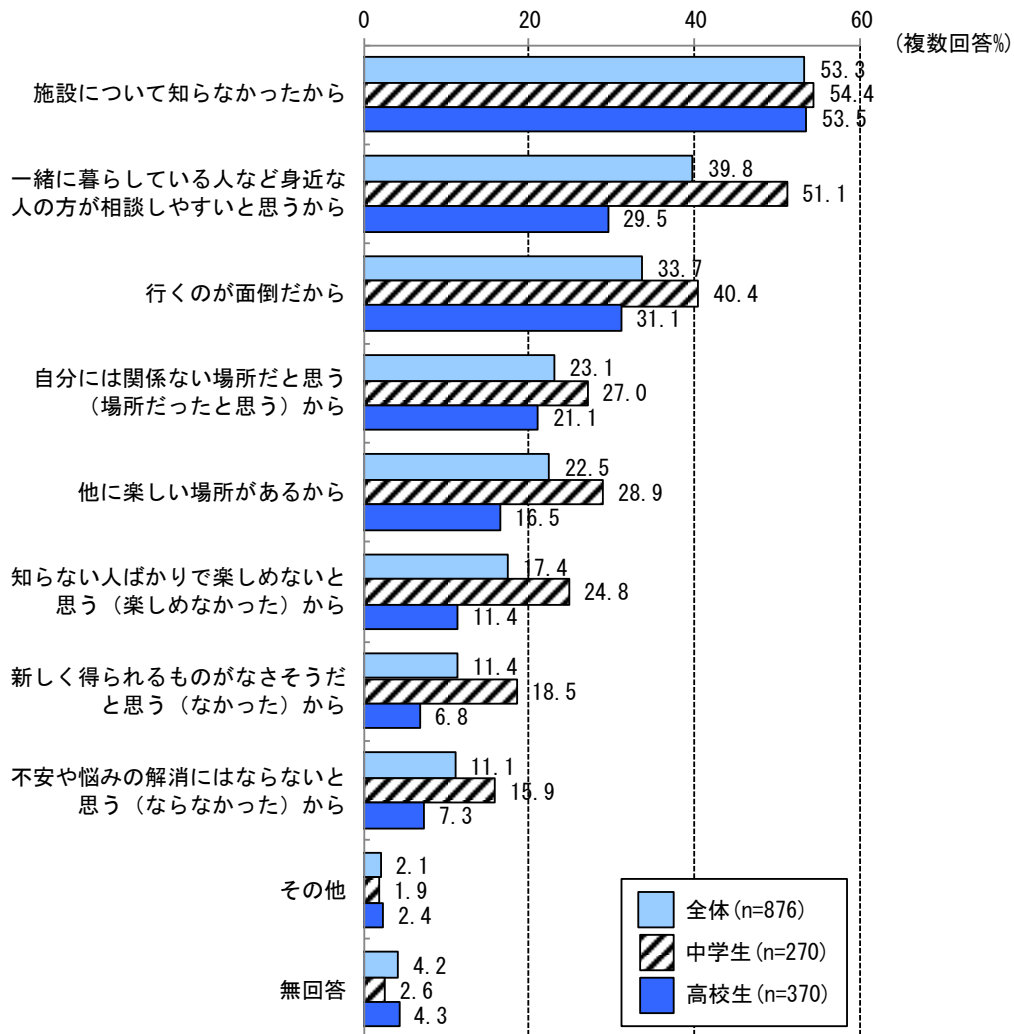
中学生、高校生とも「無料で利用できる」(中学生72.9%、高校生48.6%)が良い点として最も多く、特に中学生の割合が高い。中学生では、これに次いで「便利」(55.9%)や「勉強ができる」(49.2%)、「楽しい」(39.0%)などが多くなっている。高校生でも、“無料”“便利”“楽しい”が良い点として多く挙げられている。



(1) (イ) 利用経験で、①～③すべてに「利用したことがない」を選んだ方

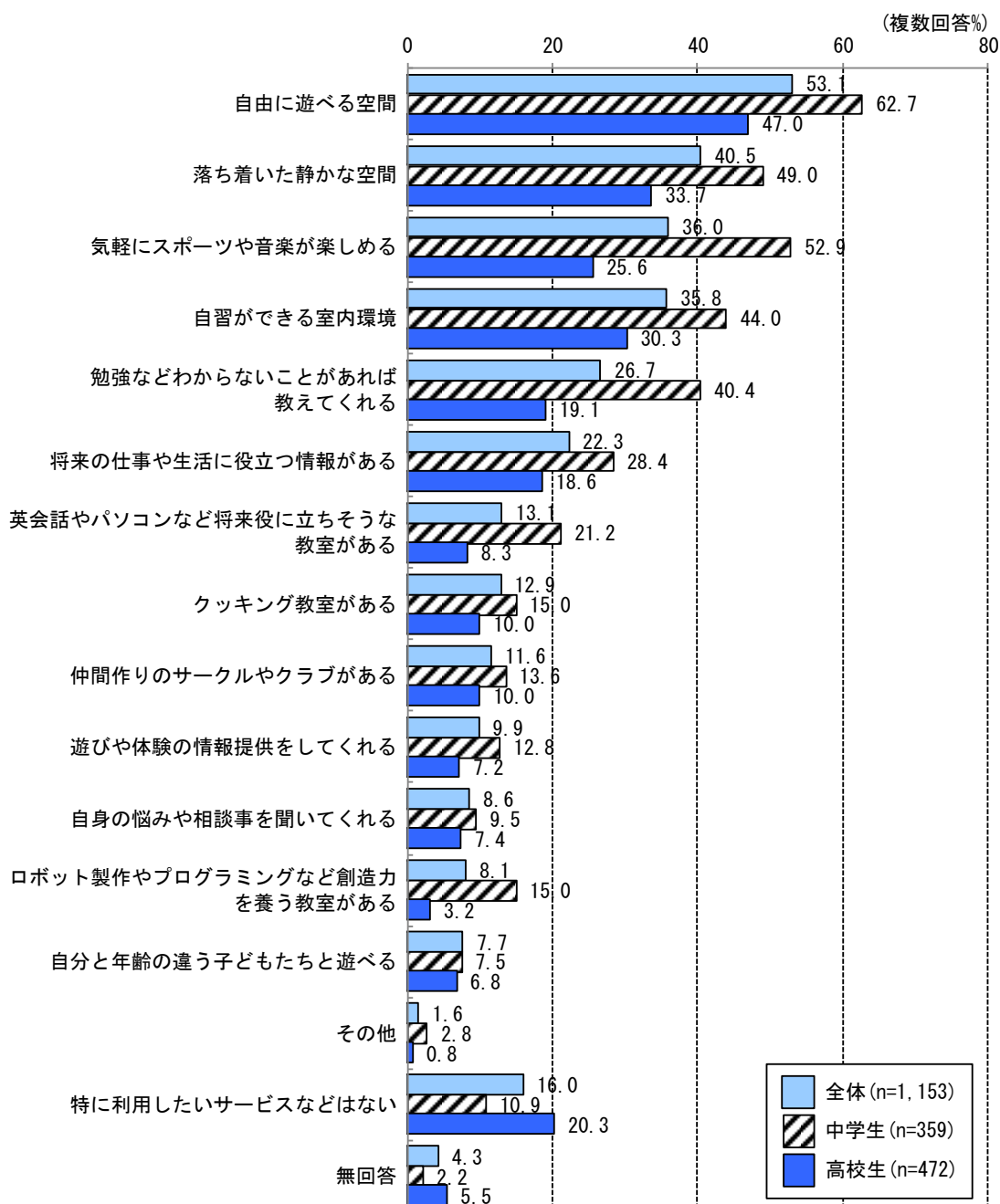
(3) 学校以外の市内の公共施設を利用しない理由〔問32〕

中学生、高校生とも「施設について知らなかったから」(中学生54.4%、高校生53.5%)が最も多く、次いで中学生では「一緒に暮らしている人など身近な人の方が相談しやすいと思うから」(51.1%)が、高校生では、これとともに「行くのが面倒だから」(31.1%)がそれぞれ多くなっている。



(4) 公共施設を利用したくなる企画やサービス〔問33〕

中学生、高校生とも「自由に遊べる空間」(中学生62.7%、高校生47.0%)が最も多く、次いで中学生では「気軽にスポーツや音楽が楽しめる」(52.9%)が、高校生では、「落ち着いた静かな空間」(33.7%)がそれぞれ多くなっている。高校生は「特に利用したいサービスなどはない」の割合が高く、利用したい企画やサービスへの回答割合は中学生に比べ全般に低くなっている。

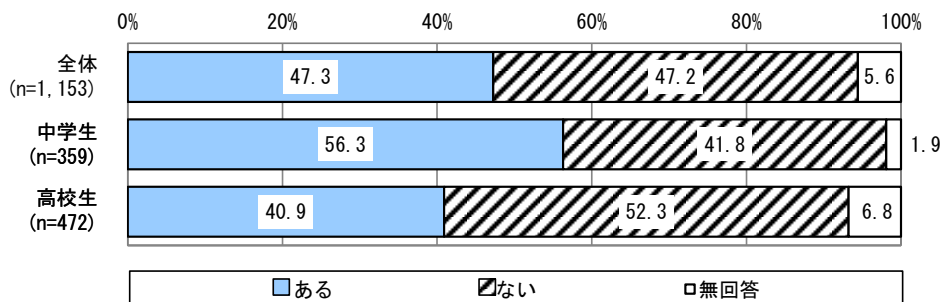


7 悩みや相談先について

(1) 悩みや困りごとの状況

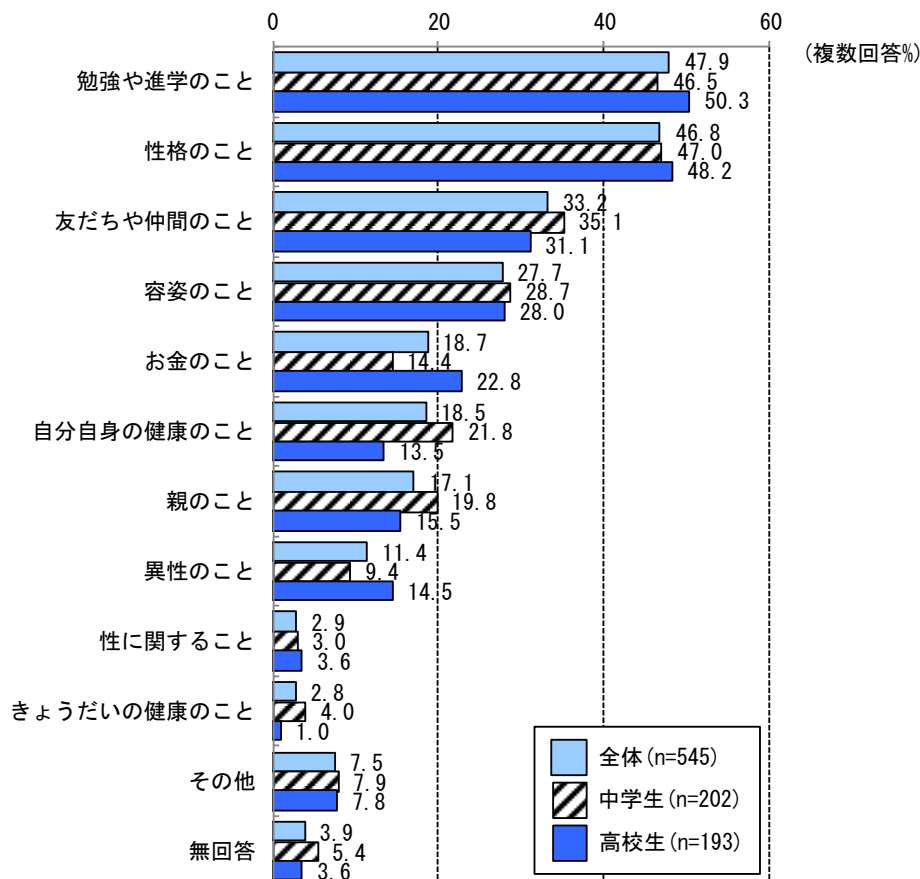
① 悩みや困っていることの有無〔問34〕

悩みや困っていることがある割合は、中学生が56.3%、高校生が40.9%で、中学生の割合が高い。



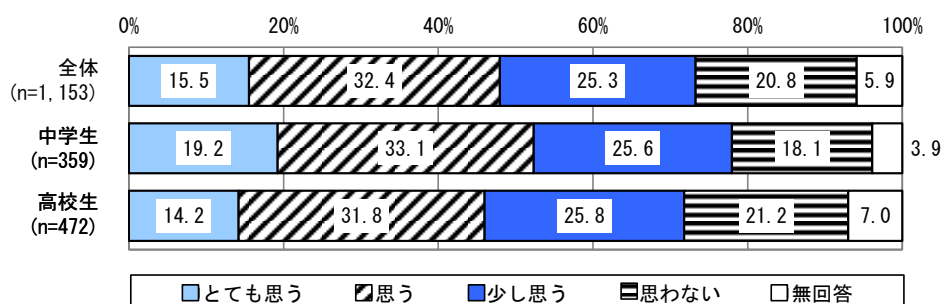
② 悩みや困っていることの内容〔問35〕

中学生、高校生とも「勉強や進学のこと」(中学生46.5%、高校生50.3%)と「性格のこと」(中学生47.0%、高校生48.2%)が多くなっている。これらに次いで「友だちや仲間のこと」(中学生35.1%、高校生31.1%)となっている。



(2) 悩みや困りごとの相談意向〔問36〕

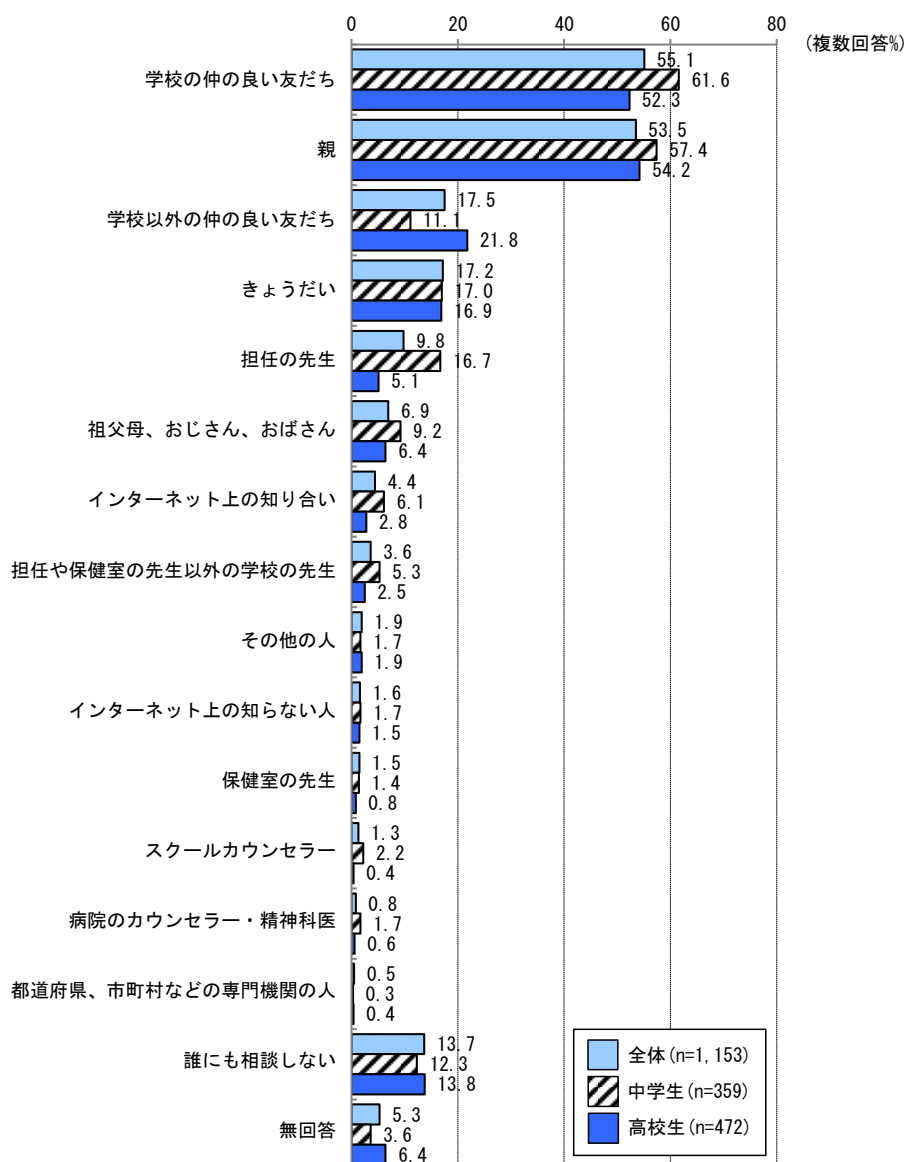
悩みごとを誰かに相談したいと考えている割合（「とても思う」と「思う」の合計）は、中学生が52.3%、高校生が46.0%で、中学生の割合が高い。



(3) 悩み事の相談先〔問37〕

悩みや困っていることの相談先は、中学生、高校生とも「学校の仲の良い友だち」（中学生61.6%、高校生52.3%）と「親」（中学生57.4%、高校生54.2%）が多くなっている。

一方、「誰にも相談しない」は、中学生は12.3%、高校生は13.8%となっている。

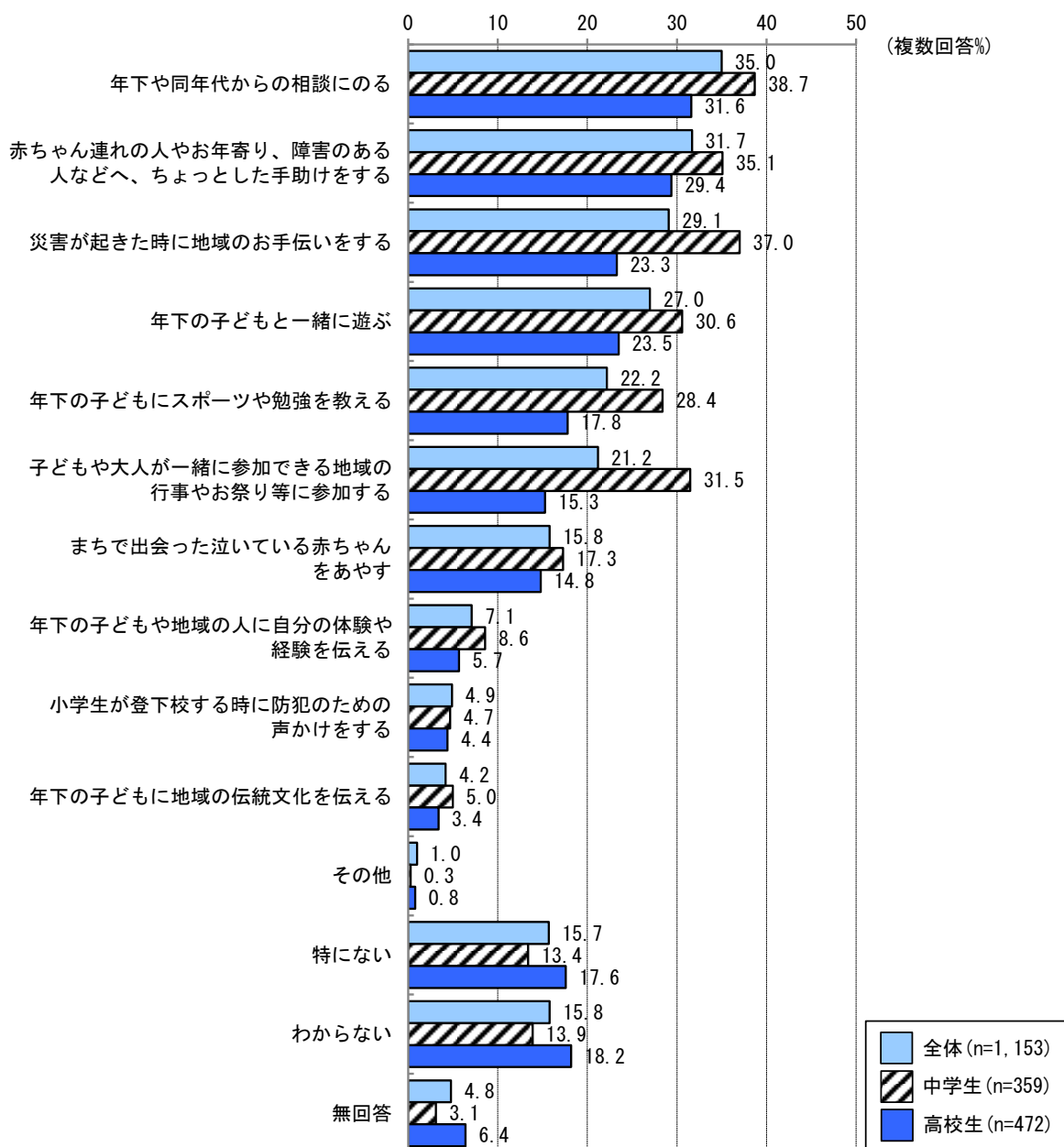


8 地域に役に立てる支援について

(1) 地域の役に立ちたいと思う行動〔問38〕

中学生、高校生とも「年下や同年代からの相談にのる」（中学生38.7%、高校生31.6%）が最も多く、これに次いで、中学生は「災害が起きた時に地域のお手伝いをする」（37.0%）、
「赤ちゃん連れの人やお年寄り、障害のある人などへ、ちょっとした手助けをする」（35.1%）
となっている。高校生でも「赤ちゃん連れの人やお年寄り、障害のある人などへ、ちょっとした手助けをする」（29.4%）は2番目に多くなっている。

逆に「年下の子どもや地域の人に自分の体験や経験を伝える」や「小学生が登下校する時に防犯のための声かけをする」は、中学生、高校生とも挙げる人は少ない。



9 自由意見

208件 (18.0%) 回答総数234件

意見の要点等

(ア) 生活環境について (59件)	
	茨木市全域を禁煙にしてほしい。
	ショッピングモールを作ってほしい。
	自転車を通る所にバイクが通っているので防止してほしい。車が路駐しているので自転車が通れない。
	色々なところにゴミ箱やトイレがあれば良い。
	前に起こった地震によって割れた地面やタイルが危ないので修繕してほしい。
	自転車道はよかった。けど、もっと太くすべき。
	学校の近くに車通りの多い道は作らないでほしい。
	茨木市全体に Wi-Fi を飛ばしてほしい。
(イ) 地域の遊び場について (56件)	
	グラウンドにライトがほしい。なぜなら夜になると暗くてできなくなるから。
	もっと自由に誰でも遊べる空間、施設がほしい。
	ボール遊びとかできて、もっとスポーツができる公園とかを増やしてほしい。
	近くに公園があるが、自由に遊べないので、制限を緩くしてほしい。サッカー禁止。野球禁止など。
	子どもも行けるスポーツジム
	親が遅くまで帰ってこない子どものために子どもたちだけが集まれる場所を作っているところがすごいいいなと思った。
	大きな駅の近くじゃないと遊びに行ける施設が少ないから増やしてほしい (映画館、ゲームセンターなど)
(ウ) 公共施設について (23件)	
	無料の自習室がほしい。
	自習室があるのが嬉しいです。もっと増えたらいいなあと思います。
	もっと身近に気軽に勉強できる施設や環境を作ってほしいです。(地区に1つなど)
	どんな人でも利用できて、いろいろな人とコミュニケーションがとれる大きな図書館。
	図書館に本や CD がたくさんあってすごくうれしくてよかったです。また、教室に行くのが苦手なので教室以外で勉強を教えてもらう場所があったらうれしいです。
	青少年センターに利用者が利用できる Wi-Fi がほしいです。
(エ) 学校・教育について (22件)	
	自主勉強の教室があったら、学校に行けない子が教室に上がれない子でもそこで、少しでも授業においつけるのではないかと思った。
	大学や高校に行くのにかかるお金を減らしてほしい。
	いじめが多いのでなくしてほしい。たまにいじめられている先生がいるのでどうかしてほしい。
	災害時に備えて、学校にスマートフォンを持ってくるのを許可してほしい。
	インターネットとの正しい付き合い方を学ぶ教室がある。
	学校生活でトイレをきれいにしてほしい。
	学校の給食をもっとおいしくしてほしい。学校に小学校の時みたいに、給食を作るところを作ったほうがいい。

	学校は全員給食にしてほしい。
(オ) 地域のイベント・活動・交流について (19件)	
	夏に市役所の近くで祭りがあった、その祭りのおかげではじめて遊べた人がいたから祭りがあって良かったし、楽しかった。
	11月に開催していた、さつまいもを使ったスイーツや料理を販売していたイベントは、私にとって本当に楽しいものでした。
	様々な年齢の方との交流の機会がもてる。
	茨木フェスティバルは毎年盛り上がっていてとても楽しいです。
	地域ボランティアが多いことが、すごくいいと思います。
(カ) 交通機関について (16件)	
	モノレールと JR を乗り換えできるようにしてほしい。
	交通面がとても便利。
	交通手段がもっと便利になって、イオンやエキスポなどに、気軽に行けるようにしてほしい。モノレールなど。
	新しい駅ができてよかった。
	南茨木のバスがないのつらい。
(キ) 市政や社会について (15件)	
	大阪北部地震でお互いに助け合えた。
	とても住みやすく、茨木市で良かったと思います。
	茨木市子育て応援キャラクターを茨木童子にしてほしい。
	もっとみんなが優しくしたら良い。
	中学を卒業したら、公的相談機関（教育相談）がありません。高校～高卒～成人～成人以降も引き続き切れ目のない支援があると心強いです。茨木市は、中学生までは生後間もなくから手厚い支援があると思います。中学卒業後はぷつぷつ切れてしまいますので、とても大きな不安を感じました。支援学校は大阪府立なので府へお伝えすることだと思いますが、こんなことがあると、知っておいてほしいのです。
(ク) 防犯について (7件)	
	街灯を増やしてほしい。
	ひったくりなどがなくなるように、防犯カメラをたくさんつけてほしい。
	犯罪が起らない茨木市にしてほしいです。
	治安が悪い。
(ケ) アンケートについて (6件)	
	アンケートをなくしてほしい。
	今後、このアンケートを通じて、更なる高みを、茨木市には目指してほしいと思います。
(コ) その他 (11件)	
	医療証が今年から中学生でも使えるようになって良かった。
	地域の祭りが多く、茨木市のPRにもつながるし色々な人との交流も深められるのでいいと思いました。自然災害とかの意識が低い人が多いのももう少し呼びかけなどを増やしたほうがいいと思います。

Ⅲ. 調査結果からみえてきた今後の課題

1 多様な人たちとのコミュニケーション機会の充実

調査結果では、ひとり親世帯の割合は、中学生に比べ高校生でやや高く、一緒に暮らしている人との会話の頻度は、ひとり親世帯で低い傾向がみられる。

会話の頻度が多いほど、生活に対する充実感が高い中高生が多いことから、子どもたちが気軽に集い、多様な人たちとのコミュニケーションを通じて、生き方が内向きにならないよう支援することが必要である。

2 参加しやすい活動の推進

調査結果では、こども会活動や地域のまつり、体験学習活動等の地域活動について、どの活動も概ね半数もしくはそれ以上が体験しているものの、ひとり親家庭の子どもの参加割合が低い傾向にある。また、地域で役に立ちたい行動として、中学生、高校生とも「年下や同年代からの相談にのる」が最も多く、これに次いで、中学生は「災害が起きた時に地域のお手伝いをする」、高校生は「赤ちゃん連れの人やお年寄り、障害のある人などへ、ちょっとした手助けをする」が2番目に多くなっている。

このように地域に貢献したい、役立ちたいという意識を持つ中高生は少なくないと思われることから、様々な活動に関する情報提供をはじめ、参加・体験しやすい条件づくりが必要である。

3 夢や目標を持って意欲的に生きる子どもの育成に向けた支援

調査結果では、中高生の9割が現在の生活は充実していると回答しているものの、多くの中高生が、もっと自分に自信を持てたらよいと思い、また、今の自分に満足していないと回答している。

しかし一見、自尊感情が低い中高生が多いように見えるが、「自分にはいいところがある」や「自分には得意なことがある」「何をやっても失敗するのではとは思わない」「自分は役に立つ人間だと思う」「自分は他の人より劣っていない」と自己評価している中高生は少なくない。

一方、現在の生活に充実感が少ない中高生では、「友だちとよく話している」や「休み時間が楽しい」「部活が楽しい」の各割合が低い。逆に「我慢をすることが多い」「学校の勉強についていけない」「友だちといるよりも一人でいることが多い」「いじめられたことがある」「1年間に30日以上、学校に通えなくなったことがある」の各割合が高くなっている。自尊感情が低いと、人間関係を避けたり、チャレンジ精神が発揮できなくなったりし、結果的に成績や業績が下がることなどにつながるの指摘もある。何事に対しても積極的に取り組み、豊かな体験を積み重ねていくことを通じて自尊感情を育み高めていくことが重要である。そのような取組の中で、さらに自信をつけ、自身を受け入れ他者をも受け入れていくことで、生活の充実感が高まることにつながっていくものと考えられる。そのためには、子どもたちが夢や目標を持ち、具体的な計画を立て、それに向かって進んでいく力をはじめ、コミュニケーション能力や課題対応能力など、将来、自立した社会人・職業人として求められる能力の育成を支援していくことが必要である。

4 ヤングケアラーの実態の把握と支援の検討

調査結果では、一緒に暮らしている人の手伝いや世話をしている割合は、高校生に比べ中学生で高く、中高生とも母親の手伝いが9割を占める。その中で、トイレの手助けやおむつの交換、衣服の着脱、移動の手助け、服薬の手助けなどを行っている中高生は、全体の中では少数であるが、買い物や料理、食事の後片付け、洗濯、掃除などの家事も併せて行っている割合が高く、また「勉強をみること」や「遊び相手」「保育所・幼稚園・学童保育・習い事などの送り迎え」などの割合も高くなっている。

一方、これらの手伝いや世話をを行うことで、「人を思いやる気持ちが強くなった」をはじめ、「人からほめられることが多くなった」や「一緒に暮らしている人とのつながりが強くなった」「困ったことがあっても自分で乗り越える意志が強くなった」「近所の人と交流することが増えた」「困っている人に進んで手助けをするようになった」などの変化があったとの回答が全体平均を上回っており、手伝いや世話をを行うことで、地域との結びつきや他者への気づかひの醸成などにつながっている様子もうかがえる。しかし、手伝いや世話をしている時間は、家事に要する時間に比べ長い傾向がみられ、身体的・精神的な負担を抱える子どもは少なくないと考えられる。

今回の調査結果では、ヤングケアラーに該当する子どもたちが少数ではあるが存在することが示唆されている。このようなヤングケアラーの中には、家族の病状に関する医療的な知識や福祉サービスなどに関する情報をもたないまま、日々ケアをしていたり、ケアを担う期間が長期化することで、いつも疲れていたり、睡眠がとれない、学校の勉強にあてる時間が少ない、友達と遊ぶ機会が減り孤立しがちといった問題を抱えている場合も考えられる。このような子どもたちの実態の把握に努めるのはもちろんのこと、ケアを行う子どもの不安や悩みに対して、福祉や医療などの関係者が意識して対応していくことや、子どもの話にしっかり耳を傾けて一緒に解決策を探る取組が重要である。

5 コミュニケーションツールとしてのSNSの適切な利用に向けた支援

調査結果では、自分専用の所有物のうち「携帯電話・スマートフォン」は高校生の95%が、中学生では79%が所持している。インターネットの利用目的は、中学生では「音楽や動画を見たり聞いたりする、アップロードする」が最も多く、「チャット（LINEなど）またはメッセージ」や「ゲームをする」「情報検索をする」などが続いている。高校生では、「音楽や動画を見たり聞いたりする、アップロードする」よりも、「チャット（LINEなど）またはメッセージ」と「SNS（Facebook、Twitter、Instagramなど）」がほぼ同率で多く、他者とのコミュニケーション目的でインターネットを利用する傾向は中学生に比べ高校生で強くみられる。SNSを利用したコミュニケーションをとることのメリット・デメリットについては、中学生、高校生とも「情報発信・収集の手段として活用できる」が多く、また中学生では、高校生に比べ「自分の情報が悪用されそうで心配」の割合も同率で高くなっている。これに対し、高校生では「場所を問わないので参加しやすい」や「ありのままに話ができるので便利」「深く関わらなくてすむので参加しやすい」などが多くなっている。さらに、SNSを通じて、何でも悩みを相談できる、困ったときは助けてくれる、他の人には言えない本音を話せる、強いつながりを感じると感じている割合も中学生に比べ高校生で高くなっている。中学生・高校生とも情報発信・収集といったSNSのメリットを享受しているが、情報を他者にオープンにするこ

とによるリスクや情報管理に対する意識は、中学生に比べ高校生で弱い傾向がみられる。

今やSNSは中高生のコミュニケーションツールとして欠かせないものとなっているが、自身の情報管理の徹底とともに、情報モラルや情報セキュリティに関する知識を深め、リスク教育としてインターネットリテラシーの向上に向けた支援を図ることが必要である。

6 楽しい居場所づくり充実

調査結果では、中高生とも、平日はパソコンやスマートフォンなどを使って過ごすことが9割前後を占めるとともに、中学生は部活動や勉強などをして過ごすことが多く、高校生は友人との交遊が主流となっている。休日の過ごし方も平日と概ね同傾向となっており、学校以外の時間の希望する過ごし方として、高校生は「何もしないでのんびりする」が多いのに対し、中学生は室内で過ごすことのほかスポーツや旅行などへの関心が高く、高校生に比べ活動的である。

また、学校以外の活動に参加したいと思うきっかけとしては「楽しそう」がポイントとなっている。本市には上中条青少年センターや多世代交流センター、ユースプラザなどの公共施設が整備されており、これら施設の利用のメリットとして“無料”や“便利”“楽しい”が挙げられている。

公共施設を利用しない最大理由として、「施設について知らなかったから」が最も多くなっているように、これら施設を楽しい居場所として子どもたちに活用されるよう機能の充実を図ることが必要である。

7 相談窓口の周知と利便性の向上

悩みや困りごとを抱えている割合は高校生（40.9%）に比べ中学生（56.3%）に多く、また誰かに相談したいと考えている割合も、高校生（46.0%）に比べ中学生（52.3%）で高くなっている。悩み事は、「勉強や進学のこと」「性格のこと」「友だちや仲間のこと」が上位で、ふだんの相談先は、中学生、高校生とも「学校の仲の良い友だち」と「親」が多くなっている。

一方、上中条青少年センターやユースプラザには相談窓口が設置されているが、これらの施設を利用しない最大理由として、「施設について知らなかったから」に次いで「一緒に暮らしている人や先生、友人など身近な人の方が相談しやすいと思うから」「行くのが面倒」など相談窓口の敷居の高さなどがネックとなっている。

子どもや若者が不安や悩みを抱えても、家庭の中では話しにくい、あるいは話しても解決につながらないといった状況に陥ったり、また相談された親自身も子どもが抱えている問題にどう対処していいのかわからない場合も少なくないと考えられる。市役所や青少年施設に気軽に利用できる相談窓口であることを周知するとともに、話しやすい、相談しやすい窓口となるよう、子ども・若者の声に耳を傾けながら利用しやすい相談窓口の充実に努めることが必要である。